

今四日印德烈譯

諸聖略傳

明治十五年七月 正教會

諸聖略傳序

(尊)

近歲澤書之多，不啻汗牛充棟，其
書止史記究理法律制度器械經
濟方技等，而教法之書寥寥，希聞。
故其益於世雖大於道德則闕如
焉，蓋人之好名利甚於好道德也。

其然是以譯述者多先名利而後
道德唯其先名利故其所譯心史
紀究理法律制度器械經濟方技
而不及教法之書也抑今世人文
雖蔚興道德則敗壞是非人文之
壞道德蓋道心之不若古也乃矯

之之術莫若除名利之心也名利
之心除而後可以養道德道德興
人文併進則可庶幾文明之域也
今田子彥乃者譯諸聖略傳數卷
示余請正且序之其書載古聖賢
之嘉言善行可驚駭可嘆稱者而

以月日配之一歲中無一虛日蓋
為其祭日也故欲知古聖賢之事
蹟與祭日一披此書則瞭然可知
可謂教會之寶鑑也吁人以道德
為本道德立則名利隨之此書一
出世人請古聖賢之嘉言善行則

成道德淳風俗可期而羨焉嗚呼
子產之用意亦可謂至矣是為序
明治十五年七月影田但以理撰



光田信書



例言

一 原書ハ歴山拉、巴弗米帖瓦氏ノ著ス所ニシテ古昔ノ聖哲
千辛萬苦ノ邪道ヲ闢除シ吾正教ノ爲メニ大ニ光榮ヲ
輝カシ基督徒ヲメ其信向ヲ堅固ナラシムル偉行ヲ述
ヘリ

二 此書一千八百七十八年露國墨斯科府ノ刊行ニシテ編者
巴弗米帖瓦氏遠ク一部ヲ惠與セラル其意蓋吾同胞兄
弟ヲシテ古聖ノ偉行ヲ知ラシメンカ爲メ也故ニ余レ謝劣
ヲ願ニス譯シテ以テ世ニ公ニス

三 祭日ハ露曆ト皇曆ト異ナルヲ以テ皆之ヲ皇曆ニ改ム

四 余學、固ヨリ淺狹ナレハ譯字ノ不允當及ヒ原書ノ意ニ
通セズノ謬誤アルモ知ル可カラス看客若シ之ヲ見ハ
幸ニ教示スル所アレ

明治十五年七月

譯者識

諸聖略傳第一卷目錄

一月之部

- 一 聖致命者捧神者イグナティイノ傳 一葉
- 二 聖大致命女解繫者阿那斯達西亞ノ傳 十八
- 三 救主降誕ノ祭 三十五
- 四 致命者ノ嚙矢ナル補祭長聖士提反ノ苦難 四十六
- 五 聖致命女阿尼西亞ノ傳 五十四
- 六 羅馬ノ聖米拉尼亞ノ傳 五十八

十三 聖大和志理乙ノ傳

六十五

十四 聖預言者馬拉基ノ紀念

九十六

十五 聖致命者格爾底乙ノ苦難

九十七

十六 聖七十使徒ノ會

百三

十七 聖シグクリテイキヤノ紀念

百六

十八 救主洗禮ノ祭

百九

十九 主ノ前驅ニノ著名ナル預言者授

百十五

洗聖約翰ノ瞻禮

廿一 墨斯科ノ府主教聖腓力ノ傳

百二十二

廿二 尼撒ノ主教聖グリゴリイノ傳

百五十七

目三

廿三 聖大フェオドシイノ傳

百六十一

廿四 聖致命女達特昂那ノ傳

百七十一

廿五 色庇ツ主教聖雅各ノ傳

百七十五

廿六 ライフ及ヒ西乃山ニ於テ殺サレ

タル諸師父ノ紀念

百八十七

グルジャノ照光者聖尼那ノ傳

百九十一

腓和ノ聖保羅ノ傳

二百二十

廿八 聖致命者ステフシップ、エレフシップ

ソレフシップ及ヒ其ノ祖母ソオニ

ルラノ紀念

二百二十九

廿九我等ノ師父捧神者成徳ナル大昂
特尼ノ傳 二百三十四

三十亞歷山大ノ大主教聖大ア
フナシ
イノ傳 二百四十七

卅一我等ノ父埃及ノ成徳ナルマカリ
イノ傳 二百六十二

我等ノ父亞歷山大ノ成徳者マカ
リイノ傳 二百七十三

目次終

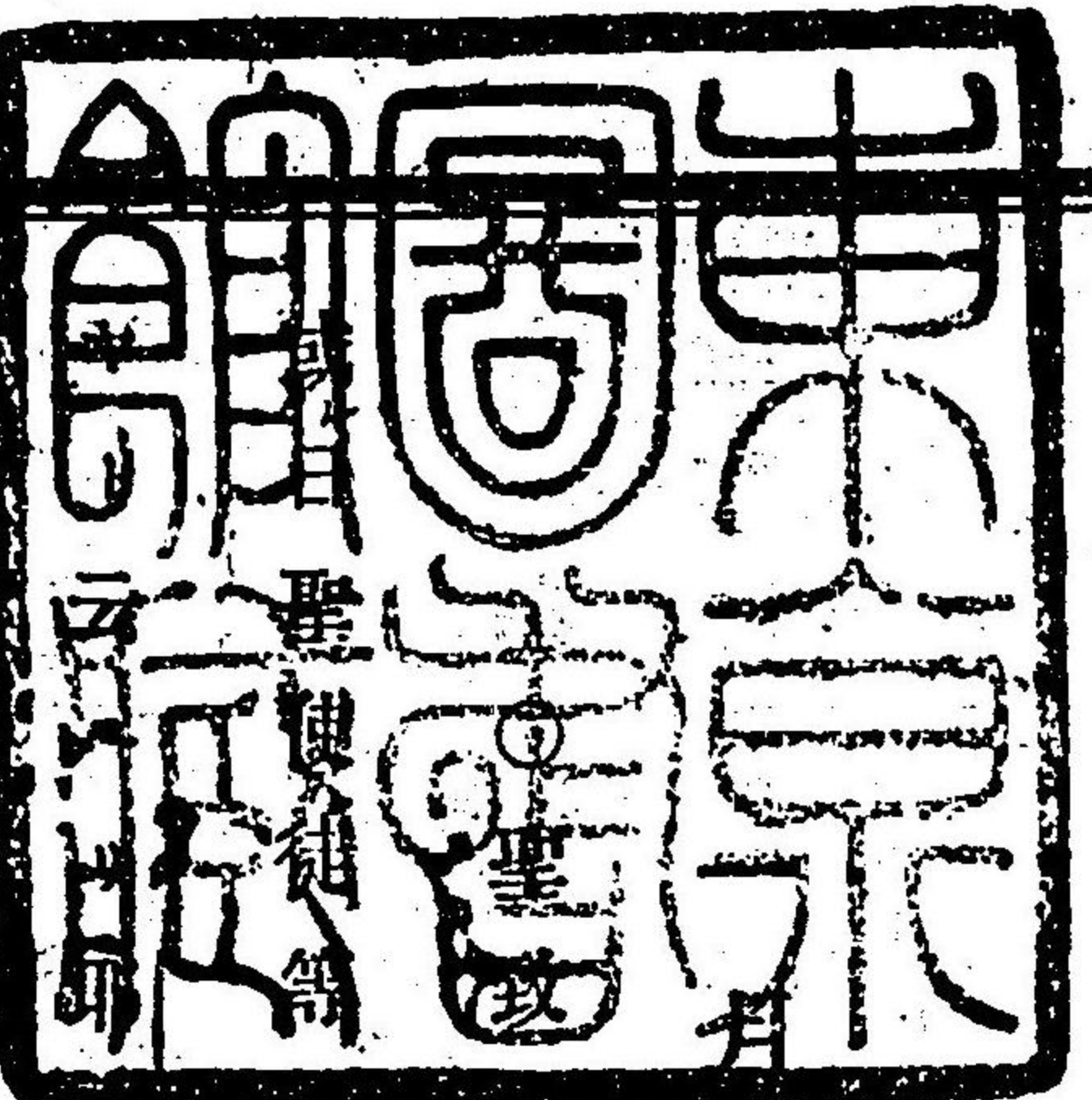
諸聖略傳第一卷

墨斯科巴弗米帖瓦編輯

仙臺 今田昂徳烈 譯

月之部

師者捧神者イグナタイノ傳一曰



五ニ權ヲ爭ヒ我等中誰カ天國ニ於テ大ナル
蘇基督之ヲ聞キ一孩提ヲ召シ抱キテ使徒ノ

前ニ立テ、曰ク爾感化シテ孩提ノ如クナラズンハ天國ニ
入ルヲ得ス故ニ自ラ謙スル此ノ孩提ノ如クナレハ天國ニ

於テ大タリト

馬太三十四章

基督ノ抱キタル此ノ孩提ニ神ノ恩佑永ク降リタリ傳ニ曰
ク主ノ抱キタル孩提ハ實ニ是レ捧神者イグナテイコノ後、
神學者約翰ノ弟子トナリ而シテ安提阿教會ノ主教ニ舉ラレ
遂ニ基督ノ聖名ノ爲ニ致命セリト初メイグナテイハ使徒
等ノ協議ニ因テ安提阿ノ主教トナリ生命ヲ顧ミス粉骨碎
身ノ基督徒^{ハリステアニ}ヲ治メ万事ニ熱切ナルコトニ使徒ノ如ク侃々
銳意ニ神ノ聖言ヲ傳ヒ多人ヲ導ヒキ基督ヲ承認セシメタ
リ曾テ安提阿教會ノ詠隊ヲ二分シ左右ニ立テ歌ハシメシ
カ後、他ノ教會ニテモ之ニ倣ヒ左右ニ列ヲタリ其處ノ牧衆
ハイグナテイヲ尊稱シテ捧神者ト云ヘリ是レ其熱切ニ神

ヲ愛スルテ證スルナリ
トヤン帝凱旋ノ時安提阿城ノ民大ニ宴ヲ張り種々ノ儀
式ヲ設テ帝ヲ祝シタルニ此ノ祝宴ハ異邦ノ式ニシテ基督
徒ハ之ニ與カラサリシカハ衆民忽チ基督徒ヲ帝ニ訴ヘ殊
ニ主教ヲ讒毀シテ異邦諸神ノ仇敵トナシタリ此ノ時トラ
ヤン帝安提阿ニ在リケレハ直ニ主教ヲ召シ問テ曰ク爾ハ
捧神者ト稱シ我カ命ニ抗シ力ヲ尽シテ全安提阿城ヲ以テ
基督徒ト爲サント欲スル者ナル乎「主教泰然トシテ曰ク然
カリ帝曰ク捧神者ノ稱ハ何ノ意ヅヤ」答テ曰ク「捧神者トハ
即基督ヲ其靈上ニ奉戴スルノ稱ナリ」帝又問テ曰ク「如何シ

爾ノ靈上ニ基督ヲ奉戴スルヤ「聖捧神者曰ク「真理ニヨリテ
 之ヲ奉戴スル也蓋シ聖言ニ云ルアリ我ハ爾等ノ中ニ居リ
 且歩セント」ト（後哥林多六章ノ十六）帝之ヲ聞テ大ニ基督徒ヲ嘲リタリ」ト
 ラヤン帝、世ノ富榮ヲ以テイグナテイヲノ基督ニ背離セシ
 メント欲シ再ヒ彼ニ約シテ曰ク「若シ爾基督ヲ棄テハ我爾
 ニ大ナル富ヲ與ヘン」ト捧神者、帝ノ優意ニ答テ曰ク「主ニ背離
 シテ世ヲ富貴ノ間ニ送ランヨリハ寧ロ寶血ヲ十字架上ニ
 流シ玉ヒシ我等ノ主基督ノ聖名ノ爲ニ苦楚ヲ受ケ致命セ
 ノコソ望マシケレ」ト帝之ヲ聞キ其自ラ謂フ所ノ語ヲ以テ
 詰責セントシテ曰ク「爾今自ラ謂ヘリ爾ノ神ハ死セリト夫

レ死セル者豈ニ能ク人ヲ救ヒ生命ヲ與ルヲ得ンヤ我等ノ
 神ハ爾ノ如ク死セシ者ニアラス乃チ生ルノ神ナリ」ト
 イグナテイ答テ曰ク「我主我神ハ我等ヲ救ハンカ爲コ天ヨ
 リ降りテ人トナリ自ラ甘シテ我等ニ代リ難ヲ受ケ十字架
 ニ釘タレ死シテ葬ラレシガ第三日ニ及テ復活シ死ノ權ヲ
 破リ再ヒ天ニ昇リ聖父ノ右ニ坐シテ罪ニ陥リシ我等ヲ舉
 ケテ天國ニ入ルヲ許シ先ニ元祖カ有セシ所ノ幸福ニ較レ
 ハ更ニ大ナル幸福ヲ賜ハントス噫爾ノ諸神中誰カ之ニ類
 セルヲ爲シ得ル者アラシヤト又異邦ノ古代記中ヨリ諸
 神ノ愚ナルヲ引キ示シタレバトラヤン帝大ニ怒リイグ

ナテイヲ死刑ニ定メ獄舎ニ囚シ後ヲ猛獸ニ食ハシメン
トセリ然ニ最ト殘酷ナル窘逐ノ際ニ當テ基督徒ナル致命
者ノ剛毅耐忍ナルハ大ニ異教人ヲ感動シ多人ヲ導テ基督
ニ就カシメタルヲ以テ聖イグナテイヲ羅馬ニ遣リ刑ニ處
セント決シタリ其ハ羅馬人等ハイグナテイカ基督ノ聖名
ノ爲ニ刑セラルヲ知ラズシテ自ラ罪ヲ犯シテ刑セラル、
尋常ノ罪人ト視做サント思ヘハナリ
斯クトラヤン帝ノ遠征セシ時イグナテイ刑ヲ受クルカ爲
ニ重キ鉄鎖ニ繫カレ遠路ヲ羅馬ニ牽レケレバ身体日ニ疲
レ死期且夕ニ迫ルモ其剛毅ナル精神ヲ任クルコ能ハズイ

グナテイハ却テ至愛ナル基督ノ聖名ノ爲ニ刑ニ就クヲ喜
ヘリ過クル所ノセレウキヤスミルナ小亞細亞諸城ノ人々
之ヲ迎ヘ涕泣シテ別テ惜ムノ基督徒ヲ慰藉シツ、スミル
ナニテ神學者約翰ノ弟子ナルポリカルプニ逢ヒ偕ニ居ル
數日ニシテ以弗所マグヰツヤトラリ羅馬ノ諸教會ニ書テ
與ヘ今猶ホ世ニ存セリ其ノ文中基督教ノ眞理ヲ説キ神ト
人トニ於ル熱切ナル愛ヲ述ヘリ最謙遜ナル聖イグナテイ
カ以弗所ノ基督徒ニ與ヘシ書ニ曰ク「予ハ實ニ權アル者ノ
如ク諸君ニ命スルニ非ラス予今基督ノ爲ニ縛セラル、ト
雖未タ基督ニ完全ナルアラズ今始テ其弟子トナルノミナ

ルモ猶師ノ如ク諸君ニ告ケン願クハ諸兄弟其信仰ト恒忍
 トテ以テ我ヲ鞏固セヨ我諸君ニ於ル愛ハ予ヲノ書ヲ呈シ
 諸君ヲノ主ノ道ニ從ハシメソトテ欲スルナリト
 聖イグナテイ又基督徒等ニ互ニ同心相愛シ牧師ヲ敬愛恭
 順スヘキヲ勸メ當時世ニ顯ハレシ多クノ偽教師ニ惑ハザ
 ラソトテ教ヘタリ
 其書ニ曰ク「凡信徒タル者ハ恒ニ熱切ニ衆人ノ爲ニ祈禱ス
 ヘシ蓋シ衆人中必反正ノ主ニ歸スル者有レハナリ且ツ潔
 ヲキ行狀ヲ爲^ナノ衆人ノ軌範トナリ導者トナルヘシ又信徒
 相集リテ祈禱スヘシ蓋シ此ヲ以テ惡广ノ權ヲ折キ其同心

一致ナルヲ以テ惡广ノ力ヲ破レハナリト
 又基督徒等カイグナテイノ境遇ヲ見如何ノ感受ヲ起スヤ
 且ツ死ニ定メラル、ト聞カバ羅馬會ノ信徒等必悲ミテ己
 ナ救ハントセンソテ慮リ之ヲ爲サ、ラ使ソカ爲メ其甘シ
 テ死ニ就クヲ論シ何人モ己ノ刑ニ行ハル、ヲ妨ケサラン
 カ爲メスミルナヨリ羅馬ニ書ヲ遺リテ曰ク「我久シク爾等
 ナ見ソトテ欲セシニ主神ハ我カ祈禱ヲ許シ今我ヲシテ爾
 等ヲ見ルヲ得セシメントセリ耶穌基督ノ爲ニ捕ハレテ囚
 トナリシハ我カ望ノ全ク成ル者ニシテ主神ノ聖旨ニ適ナ
 ヘリ我爾等ヲ見ルソテ得ハ我レ必爾等ヲ祝セン我レ神ノ

仁慈ニヨリ勇ンテ基督ノ爲ニ艱艱苦楚ヲ受ケンコト望ム
ニ爾等或ハ我ヲ愛シテ之ヲ妨ケンコト恐ルナリ今ヤ我主
ニ就クニ便地ヲ得タリ爾等誠ニ我ヲ愛セハ我ノ妨ヲ爲ス
ナカレ我レ主ノ前ニ往ク可キノ時至レハ爾等強テ我ヲ止
ムルハ善事ニアラサルナリ若シ我レ主ノ前ニ往カハ神ト
一体トナラン然ルニ爾等我ノ朽易キ肉体ヲ惜ミテ我ヲ妨
ゲハ却テ爾ヲ苦シムルナリ今ヤ祭壇ハ已ニ備リタレバ唯
願クハ我カ身ヲ以テ犠牲ト爲スヲ許シ且神ヲ讚揚ス可シ
爾等我ヲ思ハ、神、我ニ靈体ノ力ヲ賜フテ徒ニ基督徒ノ名
ヲ冒スノミナラス其實行ヲ顯ハシ得ンコト祈ルヘシ我曾

テ書キ全教會ニ達シ衆人ニ謂テ曰ク我ハ喜テ主ノ爲ニ死
スル者ナリ必ス妨ヲ爲スナカレト願クハ兄弟ヨ無益ノ愛
ヲ以テ我カ獸ノ牙ニ懸ルヲ支ルコトナカレ其ハ之ニ依テ早
ク神前ニ至ルヲ得レハナリ我レ實ニ神ノ麥ナリ今ヤ獸ノ
牙ニ刈ラレ神ノ爲ニ聖餅トナラントス我レ今賤奴ナルモ
主ノ爲ニ苦ヲ受ケハ必ス自由ノ人トナリテ甦ラン今我レ
基督ノ弟子トナルノ始ナレハ惣テ有形無形ノ物ニ望ナシ
然レニ唯速ニ基督ノ聖前ニ至ラントスル一ノ望アリ故ニ
惡魔ノ諸苦、來リテ我ヲ火中ニ投シ十字架ニ釘シ或ハ獸牙
ニ身裂ケ骨碎キ頭足、所ヲ異ニストモ我レ唯神ノ子基督ヲ

望ムナリ我等ノ爲ニ死ノ甦リシ主ヲ尋ルナリ兄弟ヨ我カ
死ニ就クテ止ムルコト勿レ蓋シ耶穌ノ爲ニ死スルハ無究ノ
生ナレバナリ我カ死ヲ悲哀スル勿レ凡テ基督ヲ有メサル
者ハ皆亡フト雖厄之ヲ有ツ者ハ悉ク生ルナリ願クハ我ヲ
ノ主ノ如ク苦ヲ受クルヲ得セシメ早ク光ノ耀クヲ見セシ
メヨ苟モ基督ヲ有ツ者ハ我カ望ヲ悟リ我カ願ヲ知り我ヲ
憐テ之ヲ許サン然レモ此ノ世ノ王ハ我身ヲ裂キ我靈ト望
トテ乱シ神ヨリ我ヲ反離セシメントセリ爾等彼ノ王ニ從
フコトナク唯我ト共ニ神ニ從フヘシ噫我天壽己ニ滿テ基督
ノ爲ニ死ヲ願フ者今謹テ之ヲ書ス我カ此世ヲ愛スルノ火

ハ己ニ十字架ニ釘セラレテ全ク消シタレモ活水ハ常ニ我
カ心中ニ流レテ我ニ云フ爾カ父ニ往ケト我ハ此世ノ樂ト
敗レ易キ食ヲ喜フ者ニアラス天ノ餅即チ亞伯拉罕太閤ノ
裔ヨリ生レシ神ノ子基督ノ聖体ヲ食ハンコト願フナリ我
ハ此ノ世ノ飲ヲ樂ム者ニアラス神ノ飲即チ無窮ノ命ト無
窮ノ愛ナル主ノ聖血ヲ飲マンコト望ムナリ短書以テ爾等
ニ請フ爾等必ス我ヲ止ルコト勿レ我ハ我等ノ爲ニ十字架ニ
死セシ主基督ヲ愛スル者ナルヲ信セヨ祈ル神、父ト主耶穌
基督ハ我カ言ノ正キヲ明ラカニセンヲ又願フ聖神ハ我ヲ
佑ケ我ヲ望テ遂サセンコト我此ノ書ヲ遣スハ私情ニ由

ルニ非ラス神ノ聖旨ニ由ルナリ我若シ苦楚ヲ受ケ之ニ堪
 へハ爾等我ヲ愛セヨ我若シ言ヲ食ミ己ヲ救ハントセハ爾
 等我ヲ惡メヨ兄弟ヨ爾等祈禱ノ時西利亞ノ教會ヲ覺へヨ
 彼ノ教會ハ我ノ外ニ我ハ善牧師ナリ善牧師ハ羊ノ爲ニ命
 ヲ捐ルト曰へシ牧師ヲ有ス彼必ス教會ヲ顧ミント斯ノ書
 ヲ遣シテ後、聖イグナテイハスミルナヨリ羅馬ニ赴キ途上
 ニ在テ三書ヲ作り其一ハ主教ノ職分ヲ述へテボリカルブ
 ニ遺リタリ
 斯クテ聖イグナテイハ海ニ浮ヒ船中ヨリ遙カコフテオル
 ナ望ミ使徒保羅ノ如ク陸路海ニ沿テ行カントスレモ此日

風烈クノ逆浪船ヲ動カシ進ム能ハス漂流シテオステイヤ海
 岸ニ達シ此所ヨリ羅馬ニ至リタリイグナテイト偕コ行キ
 シ人々及ヒ羅馬ノ基督徒等其刑ニ逢フノ近キヲ見テ大ニ
 憂悲シ力ヲ尽シテイグナテイヲ救ハントセシカイグナテ
 イハ先ニ書ノ請ヒシ如ク之ヲ肯ハス自ラ己ヲ知事ノ手ニ
 附シタリ斯クテ知事バ帝ノ旨ヲ以テ之ヲ死刑ニ處セント
 メ人民カ市街ニ群集スル祭日ニ當リ聖イグナテイヲ殺サ
 ントメ刑場ニ牽キ行キケレハ多クノ基督徒等ハ悲哀泣涕
 シテ跡ヲ追ヒ行キケルニ聖イグナテイハ主神ニ寤逐ヲ止
 メ教會ニ平安ヲ降シ玉ハソヲ祈リ又基督徒等互ニ愛ヲ

盡ス可キヲ勸言シタリ
 聖イグナテイ路上頻リニ耶穌基督ノ聖名ヲ唱ヘケルニイ
 グナテイヲ牽キ行ク異教人之ヲ訝リ問テ曰ク「爾何スレソ
 頻リニ此名ヲ唱フルヤ」ト答テ曰ク「我レ耶穌基督ヲ信シ之
 ナ心ニ銘セリ故ニ我カ口ハ我カ心中信セシ所ノ者ヲ承認
 スルナリ」ト頓テ聖イグナテイハ死場ニ近キタルモ主神ハ
 恐ル可キ死ニ耐ルノ力ヲ賜ヒケレハ少シモ怖ル、色ナク
 衆民ニ向テ曰ク羅馬府民ヨ我ハ國法ヲ破リ罪ヲ犯シ暴行
 ナ爲シテ罰セラル者ニ非ス我ハ我カ中心ヨリ離ル能ハサ
 ル眞神ノ爲ニ刑セラル、ナリ噫我ハ神ノ麥ナリ今猛獸ノ

牙ニ懸リテ細粉トナリ神ノ爲ニ清餅トナラントス」ト言未
 タ畢ラサルニ猛怒セル獅子直チニ聖イグナテイヲ裂キ殺
 シタリ斯クテ基督徒ハ謹テ其遺骨ヲ収メ安提阿ニ至リケ
 レハ此ノ地ノ基督徒ハ敬愛ス可キ牧師ヲ失ヒ大ニ憂ヒ痛
 シ悲ミテ止マサレハ聖イグナテイ多クノ基督徒ニ顯ハレ
 テ其愛ヲ慰メタリ又人アリテイグナテイカ安提阿ノ平安
 ナ祈ルヲ見タリト云

其後トラヤン帝ハ聖イグナテイガ死ニ臨ミ恐怖ノ色ナク
 欣喜從容トシテ死ニ即キタリト聞キ大ニ感シ迷雲忽チ晴
 レ大ニ之ヲ殺セシヲ悔イ且ツ基督徒ハ其教ニ違ハサル

國法ハ之ヲ守ル品行正シキ從順ノ民タルヲ認メ直ニ全國ニ令シテ之ヲ審逐スルヲ止メテ其平安ヲ保護シタリ是ニ於テ神ノ教會ハ漸ク安穩ナルヲ得タリト云

○二日

此ノ日正教會ハ羅馬帝戴克里先ノ時主ノ聖名ノ爲メ難ヲ受ケシニコミテイヤ尼适密底ノ聖致命女イウリアニヤヲ記念シ及ヒ露國キユウ府ノ府主教ナル聖彼得ヲ記念セリ其傳ハ九月五日聖軀ヲ遷スノ日ニ於テ之ヲ述フ可シ

○聖大致命女解繫者阿那斯達西亞ノ傳三日

阿那ハ羅馬府ニ生レタル人ナリ其父ハ異教人ナルモ母ハ

基督徒ニシテ信仰最モ厚カリシ此ノ時羅馬ハ無事大平ナレハ紳士等多ク學問ヲ主トシ勉メテ子女ヲ教育セリ阿那ノ父母阿那ヲ教育スルカ爲ニ當時名高キ博識強記ナルハリソゴント云ヘル人ニ托シタリ阿那學業大ニ進ミテ父母ノ明鑑ニ適ヒ業己ニ成リシカ羅馬ノ人々ハ其絶世ノ美ト非常ノ學識宏才ナルトニ驚カサル者ナカリキ然ルニハリソゴノハ基督徒ナレバ啻學術枝藝ヲ教ユルノミナラス無價ノ寶藏ナル眞ノ教ニ導ヒキケレハ阿那ハ其師及ヒ其母ヨリ眞實ノ神ヲ知ルヲ得少時ヨリ信認堅固ニシテ能ク前途ニ横ハル種々艱難ノ試ニ堪ヘ忍ヒタリ

阿那早ク母ヲ失ヒ悲歎ニ沈ミ嫁スルヲ欲セサルモ父之ヲ
 許サスノ羅馬ノ福貴ナル紳士ニ嫁セシメシカ不幸ナル阿
 那ハ唯タ其慰ミト爲ス所ハ祈禱ト基督徒ノ本分ヲ盡スノ
 ミニテ屢々素衣ヲ着、忠信ナル婢ヲ從ヘテ基督徒ノ囚セラ
 ル、獄ヲ訪ヒ力ヲ盡シテ主ノ爲メニ艱難勞苦スル者ヲ慰
 藉セシカ其夫之ヲ知り其ノ慰藉ノ道ヲ絶チ且ツ貧者ヲ施
 濟スルヲ見テ悅ヒザルノミナラス自ラ合セ得ントス父ノ
 財産ヲ仁事ノコトニ費ヤスヲ見阿那ヲ遇スルコト甚無慘コト
 阿那ニ種々ノ辱ヲ與ヒ後阿那ヲ幽メ貧人ヲ賑スノ道ヲ絶
 チタリ是ニ於テ將ニ失望セントスル阿那密カニ己ノ師ニ

ノ基督教ノ爲メニ獄ニ縛ル、ハリソゴニ書ヲ與ヘテ辛
 苦艱難ヲ述ベ其祈禱ヲ請ヒケレハハリソゴン答書ニ試ミ
 チ堪ヘ忍ヒ望チ神ニ純ニス可キコトヲ勸メテ云ハク「世ノ疑
 惑及風波ノ中ニ搖動スル阿那ニ告ク爾海中ニ在ルト雖モ
 耶穌基督來リ爾ニ向ヒ一言以テ動搖スル風波ヲ平ニシ
 爾海中ニ在ルト雖モ堪ヘ忍テ爾ニ至ラントスル基督ヲ待
 テ且ツ預言者ノ如ク呼ビ謂フ可シ我靈ヤ爾胡爲ソ、懷愛シ
 胡爲ソ、我衷ニ疑慮スルヤ、爾宜シク神ニ俟ツ可シ蓋シ我將
 サニ神ノ拯救ヲ得テ之ヲ讚美セントスト
 (詩篇四十) 爾神ニ
 二倍ノ恩ヲ願ヒ地ノ財ヲ捨テ永遠ノ世ヲ備ヘヨ虔敬ナル

人カ悲歎ニ堪ヘ忍フヲ見テ疑慮スルコト勿レ蓋シ主神ハ爾
 ナ捨テス唯爾ヲ試ムルノミ爾警醒堅心ノ已レヲ守リ神ニ
 慰藉ヲ請ヒ潔ヨク神ノ誠命ニ遵守セヨト
 阿那益々苦チ増シタリ其ハ夫ノ阿那ヲ遇スルコト一日ヨ
 リ残酷チ加フレハ也阿那世ニ長命スルコト欲セス又ハリ
 ソゴニ書チ與ヘテ曰ク「我世チ去ル將コ近カラントス爾
 願クハ我主我神ノ我靈チ受ケンカ爲メニ祈禱セヨ蓋シ我
 レ主チ愛スルカ爲メニ艱難チ嘗メタリトハリソゴン答書
 ニ又艱難ノ終リチ阿那ニ與フル神ノ仁慈ニ望チ純ニス可
 キコト慈愆ソ曰ク「黑暗ハ常ニ光明ニ先シ快爽モ亦病後ニ

在リ死後永キ生命ニ行カントセハ悲歎ニ逢フテ失望セズ
 安樂ニ居テ驕ラス一死以テ此ノ安樂ト悲歎チ掃去スヘシ
 我等ハ海上ニ航スルニ肉体ナル小舟ヲ以テスレモ一箇人
 我等ノ靈チ治ムルアリ故ニ船ハ堅固ニシテ颶風ニ逢フモ危
 キコトナシ他ノ船ハ然ラス平波ノ時ト雖モ危ウシテ將ニ覆
 ラントス蓋シ佳港ニ至ルコト思ハサレハナリ基督ノ罪ナ
 キ奉事者ヨ主ノ十字架ニ望チ属シ主ノ行事ニ倣フ可シ致
 命者ヨ一死以テ悦テ基督ニ就ク可シト
 其後阿那ノ夫ハ帝命チ奉シテ遠行シ途ニ死シタリ阿那是
 ヨリ彌々嚴ニ主ノ戒命チ守リ己ノ生命ヲ以テ神ト人トニ

務ムルノ犠牲トナシ家財ヲ以テ他人ノ幸福ヲ助クル資ト
 ナシテ吝ムコトナク貧者ニ施濟シ困者ヲ慰藉シケレハ遂ニ
 解繫者ノ稱ヲ得タリ又常ニ獄舎ヲ訪ヒ囚人ニ飲食衣服ヲ
 與ヘ仁愛真情ヲ以テ之ヲ慰メ病者ヲ扶ケ藥ヲ與ヘ且ツ基
 督ノ爲ニ囚セラル、人々ヲ扶クルハ親シク主ニ奉事スル
 ナリト喜ヒタリ
 此ノ時畏ル可キ窘逐起リ基督徒ノ鮮血流レテ川ヲ爲シ其
 ノ景狀慘怛實ニ謂フ可カラス老翁ナルハリソゴンハ羅馬
 ニテ基督徒ヲ堅メ種々ノ方ヲ設ケテ之ヲ庇護スト告訴ス
 ル者アルニヨリ戴克里先帝ハリソゴンヲアクワイレヤニ召

シテ之ヲ論シ若シ諸神ニ禮拜セハ其賞トシ大産ヲ給シ且
 ツ羅馬府ノ知事ト爲ント言ヒシカハリソゴン答テ曰ク「微
 臣ハ唯一ノ神ヲ識認スルノミ夫レ我カ神ハ世ノ万物ニ優
 リ珍寶ノ之ニ較フル物ナク我カ生命ヨリモ貴シ我レ心ニ
 之ヲ信シ口ニ之ヲ認メ之ヲ敬シテ之ヲ尊ヒ跪イテ其前ニ
 禮拜ス陛下ノ信スル諸神ノ如キハ我レ之ヲ認メテ僞神ト
 ナス故ニ命ヲ奉ソ之ニ拜スル能ハズ」ト
 帝ハリソゴンノ答ヲ聞キ其堅信撓マズ己ノ論ニ從ハサ
 ル故怒テ死刑ニ處スルコト命シタリ惜哉仁善ナル老翁ハ
 リソゴンハ白刃ノ下ニ一朝ノ露ト消エ其亡体ハ海濱ニ投

セテレ日ニ晒ラサルヲ數日間ナリシカ一基督徒ノ長老ツ
 イルト云ヘル者アリテアガヒヤヒオニヤエリナノ三女ト
 偕ニ禮ヲ備テ致命者ノ亡体ヲ葬リタリ其後十日ヲ過キハ
 リソエン夢ニヅイルニ顯ハレ告テ曰ク「九日ノ後爾必ス死
 セン三女モ亦難ヲ受ケテ致命シ天ノ大宅ニ入ラント時ニ
 阿那モ亦同キ夢ヲ見ケレハ直ニ長老ノ處ニ至リ三女ニ遇
 ヒ偕ニ終夜道話ミチノハナシヲ爲シ其信仰ト忍耐トヲ堅メ互ニ慰藉シ
 タリ斯テ數日ヲ經テ三女捕ハレテ難ヲ受テ遂ニ命ヲ致セ
 シカ長老ヅイルハ平安ニシテ世ヲ逝リタリ
 阿那ハ長老ト三女ノ亡体ヲ葬リ而シテ慈善ヲ行フカ爲メ

ニ身ト財ヲ惜マス四方ヲ周遊シ至ル所貧者ニ濟施シ憂者
 チ慰藉シマゲドニヤ馬基頓ニ至リシ時一少婦フエオドテイヤト云ヘル慈
 善ノ心深カリシモノモ窘逐者ニ捕ハレテ獄ニ幽セラレタ
 リ
 或ル日阿那獄ニ至リシカ前夜マテ訪ヒ慰メタル囚人ハ皆
 在ラサリキ其ハ獄中囚人充滿シ新ニ捕ヘ來ル者ノ入ル、
 所ナキヲ以テ先ニ繫カル、者ヲ悉ク死刑ニ處セシナリ阿
 那ハ此事ヲ聞キ悲嘆ニ沈ミシカ番兵是ヲ見、其基督徒ナル
 ヲテ悟リ阿那ヲ捕ヘテ之ヲ長官ニ告訴セリ長官出テ、詰
 リ問フテ曰ク汝ハ實ニ基督徒ナル乎

阿那曰「爾厭フ所ノ基督徒ハ我が至愛ノ者ナリ爾蔑視シテ賤シト爲ス所ノ基督徒ノ名ハ我カ一生ノ榮譽ト謂フ可キ者ナリト」

長官ハ阿那ノ貴女ニソ往昔ハ綾羅ヲ飾リ峨々タル厦屋ニ住ミ微風タニ觸レザル身ナリシニ忽チ姿ヲ易ヘテ貧者トナリ寒苦飢渴ヲモ厭フ色ナク好テ獄舎ニ至リ囚者ヲ慰藉スルヲ見言ヲ巧ミニソ論セヒ從フ可クモ見ヘサレハ長官ハ阿那ノ身ハ今貧苦ニ陥リシモ斯ル貴女ヲ獨斷シテ處置スルモ如何ト思ヒケレバ帝ニ上申シテ左右ノ命ヲ待タリ是ニ於テ戴克里先帝阿那ヲ召シ親シク問ヒ論シテ其惑ヨ

リ醒サントスルモ確乎不拔ニシテ帝ノ諭ニ從ハサレバカ
ピトリイノ長官ニ付シ彼レヲシテ阿那ヲ基督ヨリ叛離セシメントセリ長官ウリピアソハ言ヲ巧ニソ此世ノ樂ミト富貴トヲ説キ又畏ルベキ苦ミノ有様ト死ノ忌ム可キヲヲ説キ論シテ其心ヲ改メシメントスルモ阿那ハ瞬間モ惑フ心ナク自若トシテ答テ曰ク「久シク基督ヲ信シ之ヲ愛スル」
「今世ノ樂ニ優リ而シテ基督ノ爲メニ死スルハ永久ノ命ノ爲ナリト斯クテ長官ハ尽力シテ之ヲ諭スモ悉ク徒勞ニ屬スルヲ見テ阿那ヲ苦メテ之ヲ威服セシメントセリ然ルニ長官ハ頓死シケレハ此事遂ニ止ミタリ阿那ハ萬死ヲ遁レ

其友フエオドテイヤニ遇ヒ又共ニ己カ任トスル所ノ慈仁ノ事ヲ行ヘリ然ルニ不幸ニモフエオドテイヤ炎々タル火爐ノ中ニ致命セリ阿那ハイリ、ヤノ長官ノ手ニ落チ詰問セラレシカ此長官、人ト爲リ甚貪慾ナレハ其財産ヲ奪ハンカ爲メ阿那ニ諭シテ曰ク若シ爾、爾ノ財産ヲ以テ我ニ與ヘハ我爾ヲ許サント阿那之ヲ肯カハスシテ曰ク我カ財産ハ悉ク貧者ニ施シタリ今爾ハ富貴ナレハ我財産ニ要ナカルベシ若シ我レ爾ノ飢渴或ハ貧賤若クハ獄舎ニ捕ハル、ヲ見バ我レ喜ンテ爾ノ爲ニ基督ノ我ニ命スル所ヲ行ヒ爾ニ衣食シ爾ヲ慰藉シカノ及フ限り爾ノ不幸ヲ計ラント

長官己ノ望ミノ達セサルヲ見テ阿那ヲ餓死セシメントシテ六十日間、獄舎ニ繋キ食ヲ與フルヲ惟ニ回ナルモ阿那ハ神ノ助ニ依リテ神色自若タリ且ツ毎夜聖致命女フエオドテイヤ顯ハレテ阿那ト談話シ之ヲ慰メケレバ阿那ハ喜悅ニ堪ヘザリケリ長官ハ阿那ノ餓死セスシテ其望又空キニ歸スルヲ見テ阿那ヲ海ニ溺ラシメントシテ百二十人ノ罪人ト共ニ小舟ニ乗ラシメシカ其中ニエフテヒアント稱スル年老ナル基督徒モアリ小舟ノ遠ク海ニ出ル時軍兵等ハ小舟ニ傷ツケ自ラ他舟ニ移リテ小舟ノ沈没スルヲ待チタルカ奇異ナル哉小舟ハ穩安ニシテ水上ニ浮ヒ聖フエオドテイヤ自カラ

梃ヲ取リテ海岸ニ向ケシヤ否ヤ舟ノ疾キ矢ノ如ク無事ニ
 シテ海岸ニ達シタリ斯ク奇異ナル顯ハレアリテ救ハレタ
 ル罪人等眞神ヲ信シ阿那エフテヒアンノ足下ニ俯伏シテ
 聖ナル洗禮ヲ領ケンヲ懇願セリ
 長官、彼等カ奇跡ヲ以テ救ハレタルヲ聞キ再ヒ種々ノ苦
 テ與ヘ彼等ヲ死ニ處シ而シテ阿那ヲ四本ノ柱ニ縛シテ燒殺
 セシモ其亡骸ハ火中ニ在リテ少シモ傷フナカリシガ一
 ノ基督徒之ヲ葬リ而シテ其不朽体ハ君士坦丁城ニ移シタリ
 後其一部ヲ分チテ墨斯科府ノ一ノ修道院ニ移シ現今猶存
 セリト云フ

○四日

一月四日デキイ帝ノ時クリトニ於テ難ヲ受ケタル十人ノ
 致命者ヲ祭レリ其人々ハフエドルカトルニエウボルゲ
 ラシイエウニキアンヅテイクボビイアガツマスワシリド
 エワレスト是ナリ又聖主教ニフツントヲ祭レリ此人ハ少年
 ノ時世界ニ恰モ神ナキガ如ク最ト放蕩ニ世ヲ渡リタル無
 頼ノ惡徒ナルモ後大ニ前非ヲ悔イ懇切ニ改新メ神ノ助ケ
 テ祈リタリ主神ハ彼ノ改悔ヲ納レ奇異ナル事ノ顯ハレア
 リテ彼ヲ善ニ導キ助ケケレハニフツントハ修道士トナリ信
 仰ノ厚キト仁善ノ行トニ依リテ神ニ喜ハレ奇蹟ヲ行フノ

カト人心ヲ洞察スルノ殊恩ヲ受ルニ至レリコフチントハ年
老イタル後ヲ選バレテシクリトノ主教トナリ第四世代ノ初
ニ此地ニ終レリ

○五日

一月五日ニ我正教會ハ聖致命女エウゲニヤヲ祭レリ彼レ
ハ埃及ノ長官ノ女ニシテ容顔ノ嫵媚心戈ノ英智ハ亞歷山
太中彼レノ右ニ出ル者ナカリキ後チ基督ヲ信シ諸々ノ富
榮ヲ棄テ、男裝ヲ爲シ修道院ニ至リ削髮シテ修士トナリ
嚴行ヲ修メ種々ノ艱難誹謗ニ遇フモ皆之ヲ堪ヘ忍ビ遂ニ
己レノ全家ヲシテ基督ニ歸スル大ナル悦ヒヲ見ルニ至レ

リ後エウゲニヤワレリアン帝ノ時羅馬府ニ於テ致命セリ

○救主降誕ノ祭六日

我等ノ救主ナル基督降生ノ前百年ノ間猶太國ハ恒ニ異邦
人ノ重軛ヲ負ヒテ甚タ暴遇虐待ヲ被リタリ初メ彼耳西亞
ノ屬國トナリ次テ大帝歷山ニ屬シ帝崩スルノ後チ或ハ埃
及ニ從ヒ或ハ西利亞ニ納貢シ一時或ハ能ク獨立スト雖モ
數年ナラサルニ又羅馬人ニ併セラレ丁稅ヲ課シ希律ノ治
下ニ立チタリ猶太人ハ斯ク異邦ノ軛ニ困シガ預言者ヲ以テ
約セラレタル彌西亞救世主ノ降生己ニ近キニ在ルヲ以テ
自ラ慰藉セリ預言書ニハ明ニ救世主降誕ノ場所ト時トテ

記シ但^{ダニイル}以理ハ耶路撒冷^{イエルサレム}ノ聖殿再建ノ後チ四百九十年ニ救世主世ニ顯ハル可シト預言シ又米迦ハ主ノ降誕ノ地チ指シテ曰ク猶太ノ地伯利恒^{ワイフレム}ヤ爾猶太ノ郡中ニ在リテ小ナル者ニアラズ蓋シ將ニ君アリ爾中ニ出テ我カ以色列^{イスラエル}ノ民チ牧セントスト預言セリ

日月忽々降誕ノ期近ツキケレハ猶太ノ人々ハ皆彌西亞ノ降臨ヲ待チ因リテ強國チ立テ赫々タル威力チ四方ニ輝カサントシ且ツ前驅約翰ノ生ル時ノ異象ハ倏チ猶太ノ山地ニ洋溢セリ撒加利亞聖神ニ感シテ救世主顯ハル、ノ近キヲ明カニ預言シテ曰ク「此子將ニ至上者ノ預言者ト稱セ

ラレ主ノ前驅トナリ以テ其道ヲ備フト（路加六一）只タ處女馬

利亞ニ報セラレタルノ喜音チ知ラサリキ然ルニ馬利亞ハ

神ノ子ト稱セラル、冢子ヲ生ムト預言セシ神使ノ言ヲ信

シ謹テ之チ心ニ藏ノ其夫約瑟モ亦夢ニ顯ル、神使ノ告ニ

因テ其事アルヲ知レリ

約瑟ハ太闢王^{ダワイド}ノ裔クルモ貧苦ノ間ニ世ヲ送り先妻ソロミ

ヤ四子ヲ生ミタリ後、主ノ兄ト稱スル者也四子皆父約瑟ニ

從テ工業ヲ營メリ

産期滿チテ馬利亞子ヲ生マントスルキ約瑟ト共ニ伯利亞

ニ寓セリ其ハ羅馬帝該撒亞古士督天下ニ詔リシ故邑ニ至

リテ藉ニ登ラシムルユヘナリ此時約瑟ハ太闢王ノ裔ナレ
 ハ其故邑ナル伯利恒ニ至リシカ伯利恒ハ素ト耶路撒冷近
 方ノ一小邑ニシテ藉ニ登ルカ爲メ集ヒ來ル人々多クシテ
 每家皆空房ナケレハ約瑟馬利亞ノ二人寓スヘキ所ナキ故
 ニ夜、羊群ヲ守ル所ノ一洞穴ヲ尋テ得テ之ニ宿シ遂ニ冢子
 ナ生ミケレハ布ヲ以テ之ヲ裹ミ槽ニ寢セシメタリ」
 神使是ノ大ナル事ノ第一ノ嘉音ヲ謙遜ナル牧者ニ報シタリ
 此ノ夜牧者アリ伯利恒ノ野ニ群羊ヲオカヒニマセル送守セシ時主ノ光榮
 環照シ使者ニ顯レケレハ牧者ハ大ニ懼レ爲ス所ヲ知ラス
 神使曰ク「懼ル、ト勿レ我爾ニ嘉音、衆民ノ大喜ニ關スルコ

ヲ報スルナリ今日大闢ノ邑ニ於テ爾ノ救主基督生レタリ
 爾將ニ布ニ裹ミ槽ノ中ニ置キタル嬰兒ヲ見ントス是其
 号ナリ」ト言フ時條チ衆天軍アリ神ノ使者ト與ニ主神ヲ讚
 揚シテ曰ク「天ニハ神ノ光榮顯ハレ地ニハ平安降り思澤ハ
 人ニ臨メリ」ト而シテ諸神使、天ニ昇テ去レリ牧者相告テ曰ク
 「我儕伯利恒ニ往キ主我ニ示セシ事ヲ見ント遂ニ伯利恒ニ
 往キシニ槽中果シテ嬰アリ寢ルヲ見神使ノ示セシコトヲ以
 テ衆ニ告クルニ聞者皆之ヲ奇トセリ
 當時博士數人アリ東方ヨリ耶路撒冷ニ至リテ昔時尼布甲
 尼撒王、迦勤底ニテ預言者但以理ヲ以テ博士ノ長トナシタ

リ(但以理書五章十一節)是ニヨリテ按スルニ但以理ノ預言ニヨリ彌西亞ノ降臨ノ時ヲ知ル博士等ハ其降誕ヲ待ツナラン博士ハ當時東方ニ顯ル、星ニヨリ其降誕ヲ知リ東方ノ王ニ禮物ヲ捧クルノ禮ニ從ヒテ黄金、乳香、沒藥ヲ備ヘ嬰兒ヲ拜セシカ爲ニ耶路撒冷ニ旅行スルナリ(曰ク新タニ生レテ猶太ノ王タル者安クニ在ルヤ我レ東方ニ於テ其星ヲ見タリ故ニ來リテ之ヲ拜スル也)ト希律王聞テ大ニ懼レ乃祭司、諸長、民間ノ士子ヲ召シ問テ曰ク「基督ハ將ニ何ノ處ニ生ル可キヤ」僉曰ク「預言者ノ書ニ依リテ按スルニ猶太ノ地伯利恒邑ナリ」ト是ニ於テ希律王密ニ博士ヲ召シテ曰ク「爾等往キ

テ勉テ嬰兒ヲ訪ヘ遇ハ、則チ我レニ告ケヨ我亦往テ之ヲ拜セン」ト博士命ヲ聞テ行キ忽チ東方ニ見ハル星前導シ嬰兒ノ居ル所ニ至レハ則其上ニ止レリ博士、室ニ入り俯伏シ嬰ヲ拜シ寶盒ヲ開キ黄金、乳香、沒藥、諸物ヲ獻シタリ斯ク數百年前ニ救主ノ事ヲ預言シタル言應セリ救主ハ地ノ光榮モ富貴モアルナクシテ貧賤ノ間ニ生レシカ猶太人ハ皆思ラク彌西亞生レナハ必異邦ノ軛ヨリ國人ヲ脱スル大君トナラント而シテ其實ニ彌西亞ハ死ニ勝チ人々ヲ罪惡ヨリ脱シ人々ニ心靈ノ自由ヲ與フルヲ知ラス彌西亞人々ニ賜フ所ノ幸福ハ形体アルニ非ラス限リアルニ非ラス

信義、平和、永生ニシテ在天窮リナキノ安樂ナリ然ルニ猶太人ハ是等ノ幸福ヲ知ラザリキ
 博士等耶穌基督ヲ拜シ他途ヨリ故郷ニ歸リタリ其ハ博士等夢中ニ默示ヲ得、希律ニ反リ見ルナカラ令メタレハ也神使又夢ニ約瑟ニ見レテ曰ク「起テ嬰兒及母ヲ攜ヒテ埃及ニ走リ彼ニ寓シ余復タ爾ニ示スヲ待テ蓋シ希律將ニ嬰兒ヲ索メ之ヲ殺サントス約瑟命ヲ聞キ即夜埃及ニ走リ彼ニ留リテ希律ノ薨スルニ至レリ傳ニ云フ約瑟カ埃及ニ走ル途間、盜アリテ之ヲ掠奪セントス其一人耶穌ノ面目秀美ナルヲ見驚キテ其友ヲ止メテ曰ク「彼等ヲ犯スコトナカレ神若シ

人体ヲ假リ人ト爲ルニアラズンハ如何ンソ是ノ如キ秀美ノ嬰兒アラシヤ」ト時ニ處女盜ニ謂テ曰ク「爾今是兒ヲ守ルニヨリ兒、後、必、爾ニ善報ヲ與ン」ト是ノ盜後ヲ實ニ耶穌ノ右ニ釘セラレ悔改メ主ヲ信セシ者ナリト總ヘテ神聖ナル嬰兒及至聖童女ノ埃及ニ旅スル事ハ照々トシテ其地ニ明カナリ
 約瑟等憩ヒタル桑樹ノ傍ニ奇蹟ニテ泉涌キタリ此ハ約瑟等渴ヲ痊ヤシ且ツ馬利亞カ神聖ナル嬰兒ヲ浴セル所ニシテ今猶存セリ神聖ナル嬰兒埃及ニ至ルニヨリテ殊ニ著シキ奇蹟アリ即埃及ノアル所ノ偶像倏チ頽レテ破レタリ

希律ハ博士ヲ待ツ久シキモ其歸ヲサルヲ見、巳ノ位ノ危キ
 チ慮リテ嬰兒ヲ殺サントセリ然ルニ之ヲ索ルニ由ナケレハ
 人ヲ遣ハシテ伯利恒境内ノ嬰兒凡二歳以下ノ者ハ皆之ヲ
 殲セリ是ノ慘怛ノ事アルニ因リ境内至ル所悲泣哀哭ノ聲
 聞ヘサル所ナシ然レモ王ハ其本意ヲ達スル能ハス蓋吾人
 ノ知ル如ク此時耶穌基督ハ伯利恒ノ境内ニ在ラサレハ也
 正教會ニテ伯利恒ノ嬰兒ノ殺サル、ヲ紀念シ一月十日ニ
 瞻禮セリ

基督降誕ノ日ニ正教會ハ左ノ祝文ヲ誦セリ
 基督我神ヤ爾ノ降誕ハ世界ニ知慧ノ光ヲ顯ハセリ蓋シ之

ニ由テ星ニ務ムル者星ニ教ヘラレ爾具ノ日ナルヲ拜シ爾
 天上ノ東タルヲ悟レリ主ヤ爾ヲ崇メ讃ム
 童女ハ今永在ノ主ヲ生ム地ハ載セ難キ者ニ洞ヲ獻シ神ノ
 使ハ牧者ト共ニ讃メ歌フ博士星ニ從ヒテ旅行ス蓋シ我等
 ノ爲ニ永久ノ神、嬰兒トナリテ生ル

○七日

一月七日正教會ニテ我等ノ主耶穌基督ノ母タルマリア能ク
 スル者ヲ尊ヒテ最ト嚴カナル侍奉神禮ヲ行ヒテ神母ヲ讃
 揚セリ此ノ祭ヲ至聖神母ノ會ト稱セリ會トハ正教會ノ諸
 神品相會シテ侍奉神禮ヲ行ヒ至聖神母ヲ讃揚スルノ謂ヒ

ナリ

此日又至聖童女ノ聘者、聖約瑟ヲ記念セリ其傳ハ詳カナラ
ス

○致命者ノ嚆矢ナル補祭長士提反ノ苦難八日
ステンツン

我主耶穌基督、天ニ昇リ聖神、使徒ニ降臨スル後聖言條ヲ四
方ニ公布シ信者日ニ増加セリ此ニ於テ司祭長及ヒ上審院
ノ人々ハ新教ノ速ニ延蔓スルヲ見テ憤怒ヲ起シタリ其ハ
彼等ハ耶穌基督ヲ極刑ニ處シ十字架ニ釘殺シ其言モ亦タ
滅セリト思ヒ主ノ生存中恒ニ主ニ隨フ所ノ貧賤不學ノ漁
夫ヲ以テ意トセサリシニ豈ニ計ラソヤ今彼ノ謙卑ナル漁

夫ノ銳意ニ恟ル色ナク大聲ノ耶穌基督ノ復活シ天ニ昇リ
聖父ノ右ニ坐スルヲ傳ヒ異蹟休徵ヲ行ヒ一タヒ手ヲ接シ
テ病者ヲ痊ヤシ瞽者ヲ明ニシ諸國ノ方言ヲ以テ教ヲ傳ヒ
且ツ其言非常ノ力アレハ群衆ハ使徒ニ從ヒ喜ンテ財產諸
物ヲ捨テ基督ノ徒トナラントスルニ因レハ也猶太ノ諸長
ハ苛法ヲ以テ之ヲ遏止セント使徒ニ試ミ使徒ヲ捕ヘ獄舎
ニ繫キ傳道ヲ禁シ且ツ使徒ヲ以テ摩西ノ律法ヲ破ル者ト
爲シ民ヲノ使徒ニ背カシメントセリ斯ク窘逐ノ間ニ在レハ
基督ノ教ハ彌々公布シケレハ益々嚴酷ナル法ヲ用ルモ基
督徒ノ社會ヲ挫ク能ハス蓋、聖使徒路加曰ク使徒力メテ主

耶穌基督ノ復生ヲ證シ衆人大寵ヲ得、其間、窮乏者ナシ蓋、田宅アル者ハ售テ其金ヲ挈テ使徒ノ前ニ置キ求ル者アレハ則チ之ヲ分ツト斯ク教會ノ盛ナルニ隨テ施濟ヲ受クル者數支族ノ人ナレハ自ラ不和ヲ生シエリネイ希利尼ノ方言ヲ能クスル猶太人アリ施濟其嫠婦ニ及ハサルヲ怨ミタリ使徒之ヲ聞テ曰ク神ノ道ヲ傳ルヲ爲カスノ几筵是レ司トルハ宜キコ非スト因テ弟子中ヨリ七人ヲ擇テ此ノ事ヲ司トラ使ントノ擇撰シタルニ士提反先ツ其撰ニ當レリ其人ト爲リ篤信ニシテ聖神ニ感スル者ナリ使徒祈禱ノ七人ノ撰拔セラル、者ニ手撫ノ禮ヲ行ナヒ之ヲ稱シテ補祭ト云フ七人ハ事務

練達ニシテ銳意ニ事ニ從ヒタリ

耶路撒冷ノ信徒増々多ク司祭亦信ノ基督ニ歸スル者多シ

是ニヨリ諸會堂ノ人聳動シ士提反ヲ詰問シシカ士提反ハ

慧心銳意シテ答ヒ且ツ異蹟ヲ行ナヒテ之ヲ證セハ衆勝ツ

一能ハサル故人々ニ賄シ流言セシメ衆及ヒ民間ノ士子ヲ

煽動シ神及ヒ摩西ヲ毀ル者ナリト上審院ニ告訴シ証者ヲ

設ケテ之ヲ証セリ

士提反上審院ニ出テ已ノ無罪ナルヲ證シ証者ニ向ヒテ其

恒ニ律法ヲ犯シ破ルヲ責メ且ツ神ハ以色列民ニ賜ヒタル

諸恩即チ神之ヲ埃及ヨリ出シタル轉末ト異蹟休徵ヲ以テ

曠野ニ庇蔭シ之ニ律法ヲ賜ヒ之カ爲ニ初メ行堂ヲ造リ後
 聖殿ヲ建テ之ニ預言者ト傳道者トヲ遣ハシ飽ク迄モ恩佑
 ナ垂ル、モ撰民タル猶太人ハ神ノ律法ヲ破リ神ノ命ヲ奉
 スル者ヲ杖撻シ遂ニ罪惡貫盈シ基督ヲ十字架ニ釘シテ之
 ナ殺シタルヲ述ヘタリ士提反又曰ク爾、強項ニシテ心ト耳
 ト割ナ受ケサル人恒ニ聖神ニ逆ヒ爾ノ祖カ行フ所、爾又之
 ナ行フ昔爾ノ祖ハ義者カ將ニ至ラント預言シタル者ヲ殺
 セシガ今義者至ルニ爾亦解ノ之ヲ殺セリト(行傳七ノ五)
 衆、士提反ノ言ヲ聞テ忿恚切齒ニ堪ヘス士提反聖神ニ感シ
 目ヲ注テ天ヲ仰キ神ノ榮ヲ見テ曰ク我レ天啓キ人子、神ノ

右ニ立テ見ルト衆同心蜂擁シ之ヲ逐テ城外ケドル泉ノ傍
 ナルイオサフトノ谷ニ出タシ之ヲ石擧セリ士提反祈禱シ
 且籲テ曰ク請フ主耶穌基督我カ靈ヲ受ケヨト又膝ヲ屈シ
 大ニ呼テ曰ク主此ノ罪ヲ以テ彼ニ歸スル勿レト言畢テ世
 ナ逝リタリ

士提反カ窘逐セララル、時ノ謙讓モ仇ノ爲メニ爲セシ最後
 ノ祈禱モ猶仇ノ心ヲ解ク能ハス彼等益々妄戾殺伐ノ言ヲ吐キ
 基督教會ヲ窘逐セントセリ殊ニ熱中ナルハ一年少ノ掃羅
 ナリ後掃羅ハ聖神ニ環照セラレ翻然トシ敵ヲ攻メ基督ノ
 聖名ヲ傳フル所ノ熱心者トナリ功名赫々タル使徒保羅是

ナリ傳ニ云フ至聖童女馬利亞神學者約翰ヲ携ヒ山ニ登リ
 士提反ノ殺サル、ヲ見、之カ爲ニ祈禱セリト猶太人ハ士提
 反ノ屍ヲ投シ鳥獸ノ食トナセシカ希伯來ノ高名ナル法學
 士ガマリイルハ其致命セシヲ重シ禮ヲ備ヘ其屍ヲ己ノ園
 莊ニ葬リ信者之カ爲ニ拊膺シ大ニ哭シタリ然ルニ基督徒ノ
 教會ハ窘逐ノ中ニアレモ益々廣延堅立シ其勇敢ナル人之ヲ
 挫ク能ハス耶路撒冷ノ信徒ハ掃羅ノ窘逐ニヨリ避ケテ四
 方ニ散シ到ル所嘉音ヲ傳ヒ信者彌々増加セリ四百十五年
 ニ一ノ司祭アリ默示ヲ得テ致命者士提反ノ聖躬ヲ發キ耶
 路撒冷ノ郇ノ聖殿ニ安置シ數年ノ後小フェオドルノ后エウ

ドキヤ聖士提反ノ名ニ依リテ其致命セシ所ニ聖堂ヲ營建
 シタリ

此ノ日又第十世代ニ於テ斥像者ヨリ窘迫セラレ、フェオド
 ル及フェオフンヲ紀念セリ

○九日

此ノ日ニ^ニ尼^ニ适^ニ密^ニ底^ニ城^ニノ聖殿ニ於テ公祈禱ノ時殺サレタルニ
 萬人ノ基督信者ヲ紀念セリ是レ三百二年載克里先及ヒマ
 シシミアン在位ノ時ナリ是ヨリシテ前代未曾有ノ最モ恂ル可
 キ窘逐ヲ惹キ起シ十年ノ間流血川ヲ爲シ其慘怛實ニ謂フ可
 カラサリシカ大帝君士坦丁ノ即位ニ至リテ止ミタリ此ノ

慘怛ノ事アリシハ歴史家、或ハ「パスハ」大祭ノ夜或ハ降誕大祭ノ日ナリト云フ

○十日

此ノ日伯利恒ニ於テ希律ノ爲ニ殺サル、諸嬰ヲ追念シ又マルケル、ヲ追念セリマルケル、ハ伯基ニ高名ナル不^{ヒハニヤ}寢修道院ヲ建テタリ此ノ院ハ晝夜ノ別ナク階級ニ分タル、修士カ斷間ナク主神ヲ讚揚セシ所ナリ

○聖致命女阿尼亞^{アニア}ノ傳十一日

聖阿尼亞ハ希臘ノソルン城ニ生レタリ其父母ハ仁善ニシテ神ヲ愛シ甚富貴ノ人ナレハ女ヲ鞠育スルニ尤モ意ヲ用

キタリ阿尼亞ハ神ヲ愛スルヲ万物ニ優リ喜テ神ノ戒ヲ守リ銳意ニ神ノ聖旨ヲ行ハントシ且ツ其才能容色共ニ當時ニ比ナク而シテ驥々トシテ諸學ニ進メハ父母ノ欣喜謂フ可カラサリシカ惜カク早ク父母ヲ失ヒ悲歎ニ沈ミタリ父母ノ世ヲ逝ル後ハ獨リ大ナル財産ノ主トナリ土地金銀貨財珍寶器物ト錦綾ノ衣服ヲ有スレト阿尼亞ハ心鬱々トシテ樂マス而シテ富貴ノ中ニハ誘惑多クシテ驕慢虛榮ニ陥リ易キヲ知り恐々トシテ恒ニ神ニ恩佑ヲ玉ヒ已テニ賜フ所ノ富ヲ以テ公益ノ爲ニ用キ心靈ヲ破ルルニ費サ、ヲ使フヲ祈リ終ニ其財産ヲ以テ貧者ニ分チ與ヘントセリ一日其

家産ヲ賣ル時買人ニ謂テ曰ク請フ聞ケ我家産ヲ賣ルハ貧人ヲ濟施センカ爲ナリ故ニ適當ノ價ヲ以テ之ヲ買フヘシ蓋シ主神ハ公義ヲ愛スレハ亦公義ヲ以テ爾ニ報イント阿尼西亞價金ヲ受ケテ貧者ニ濟施シ病者ヲ看護シ獄舍ヲ訪ヒ囚者ヲ慰藉スルニ豊ナル助ヲ爲セリ然ルニ阿尼西亞ハ金財ヲ以テ人々ニ濟施スルノミナラス病院ニ至リ藥ヲ與ヒ瘡ヲ裹ミ熱切ニ愛ヲ尽シテ之ヲ助ケ巳ノ富ヲ願チ自ラ貧キニ安シ而シテ晝ハ工業ヲ營ミ夜ハ祈禱シタリ阿尼西亞ハ斯ク貧ニ在ルモ心必ス大欣喜スルナラン其ハ人ノ幸福ハ富貴ニヨリテ成ルニアラズ良心ハ安平ナルト精神ハ爽然タルト

ニヨレハナリ

此ノ時ニ當リテ又畏ル可キ窘逐起リタリ蓋シ人々官ニ告ケズシテ縱マ、ニ基督徒ヲ殺スト雖モ官ノ法律ニ於テ之ヲ罰スルヲ無レハナリ一日邪神ノ祭アリ異教ノ人々群集シテ巷街ノ混雜一方ナラス阿尼西亞聖堂ニ至ラントノ街ヲ過ル時一人ノ軍士阿尼西亞ヲ視テ之ヲ呼ヒ止メ祭ヲ偶像ニ獻セシメントセシカ阿尼西亞大ニ驚キ身ニ十字架ヲ畫シ默禱シテ未タ答ヒサルニ兵士之ニ云テ曰ク爾ハ何人ニシテ何處ニ往カントスル乎阿尼西亞答テ云ク吾ハ基督ノ婢ニシテ聖堂ニ至ルナリト兵士之ヲ捕ヘテ曰ク吾爾ノ聖

堂ニ至ルヲ許サズ吾等ト共ニ祭ヲ我カ諸神ニ獻セヨト無理非道ニモ處女ヲ虐ケ偶像ノ堂ニ至ラントセリ阿尼西亚其意ニ從ハサンハ兵士怒ニ堪ヘカリゲン劔ヲ拔イテ之ヲ斬リケレハ一聲叫ヒ終ラサルニ一朝ノ露ト消エニケリ異教ノ人ナカラモ之ヲ見聞ク者ハ罪ナキ處女ヲ殺セシ無慘ノ兵士ヲ咎メサルハナシ斯クテ止ム可キ事ナラサレハ基督徒等大ニ悲嘆シ涙ナカラニ最敬ンテ其亡体ヲ葬リタリ

○羅馬ノ致命女聖米拉尼亞ノ記念十二日

第四世ノ代、東方ニ於テアリイノ異端ヨリ窘逐セララル、聖ナル人々ハ其難ヲ避ケテ羅馬ニ至ル者多カリキ其羅馬ニ

在リテ東方ノ修道士ノ功德ト聖隱士等ノ最ト潔キ行狀ヲ談話シケレハ基督徒等ハ物新シキ心地シテ信心益々深ク殊ニ女徒ニ感化ヲ及ホシケレハ羅馬ノ貴婦人等ハ朝露ノ晴ル、カ如ク忽然ト今日迄好ミシ劇場、歌舞、諸ノ遊戯ヲ謝棄シ驕奢ヲ去リ財産ヲ頒チテ貧者ヲ救ヒ人ノ虜トナリ奴トナル者ヲ償ヒ求テ自由ノ者トナシ或ハ聖堂ヲ修復シ或ハ新タニ建築セリ此ノ如キ慈仁ナル婦人中ニ殊ニ著シカリシハ羅馬府知事ノ女米拉尼亞ナリ

米拉尼亞ハ二十歳ノ時心ヲ決シテ身ヲ神ニ捧ケ耶羅尼木ト云ル敬虔ナル老人ニ隨ヒ聖書ヲ學ヒ品行ヲ修メ貧者ヲ

助ケ悶苦者ヲ慰メケレハ人々ハ米拉尼亞ヲ慈母ノ如クニ
 慕ヒタリ米拉尼亞ハ聖跡ヲ巡拜シ又修道士ノ行跡ヲ見
 ト欲シテ東方ニ旅行シ四方ヲ周遊シ聖ナル隱士ヲ訪ヒ修
 道院、病院、客舎ヲ立テ大ニ卑遜シテ自ラ病者ヲ看護シ旅客
 ニ給事シ富豊ナル財産ヲ斯ノ如キ神ニ嘉ミセラル、善事
 ニ費シ而ソ且ツ手翰ヲ羅馬ニ在ル親戚朋友ニ送り己レ東
 方ニ於テ見ル所ノ隱士ノ功德ヲ稱贊シ羅馬ノ信徒ヲ懲
 セリ羅馬ノ基督徒ハ其書ヲ得テ喜悅ニ堪ヘス彌々務テ公
 利公益ヲ謀リ女徒等相議シ始テ羅馬ニ病院ヲ建テ婦女自
 ラ病者ヲ扶助看護シ或ハ財産ヲ捐テ遠ク異邦人ノ爲メニ

虜セラレテ人ノ奴トナル不幸ノ人々ヲ償ヒ歸シテ自由ノ
 民トナシケレハ虔敬ナルパウラハピオラ米拉尼亞及ヒ他
 ノ基督徒等ノ名ハ伊達利亞伊斯哈尼亞亞弗利加ノ國々ニ
 著シカリキ其ハ彼等ハ無數ノ財産ヲ擲テ此ノ地ノ人々ヲ
 救ヘハナリ然ルニ耶路撒冷ニ客居セシ老婦米拉尼亞ハ故
 郷懷カシク一度羅馬ニ歸リ親族朋友ヲ訪ハント思ヒ旅ノ
 用意モ終リシカハ海路ヲ取り便船ニ乘リ羅馬ニ至リケレ
 ハ不幸ニモ伊達利亞地方ハ多年ノ饑饉ニテ人心自ラ穩カ
 ナラス加之ナラス四方ノ蠻民等邑城ニ侵入シケレハ全家
 虜ニセラレ財産ハ蠻民ニ掠奪セラレ巍々タル宮殿モ雨ヲ

凌グノ弊屋モ兵火ノ禍ニ罹リ灰燼トナル者多カリキ老婦
 米拉尼亞ハ朋友親戚ヲ憇憑シテ財産ヲ盡民ニ掠奪セラ
 レンヨリハ寧ロ主神ニ獻シ貧者ヲ賑ハス可シト云ケルニ
 親族中殊ニ其孫女米拉尼亞ト稱スル者ハ堅信、不拔、品行、清
 潔ニシテ能ク祖母ノ心ヲ慰藉セリ此ノ少婦ハ嫁シテ羅馬
 ノ最ト富貴ナル紳士ノ婦トナリ自ラ伊達利亞シナリヤ亞
 弗利加ノ諸國ニ廣大ナル不動産ヲ有セシカ心少シモ富貴
 ニ傾クナク最ト廉潔ナル心ヲ以テ主神ニ奉事シ人々ヲ
 愛シタリ彼レ二子ヲ生ミシカ二子共ニ幼ニシテ逝リケレ
 ハ端ナキ世ニ望ヲ失ヒ夫婦共ニ益々信仰ヲ篤シ深ニ深ニ

加ヘ時ト財トナク神ノ好ミセル善行ニ供セントセリ實ニ夫婦
 ハ其言ヲ食ムコトナク之ヲ行ヒ已ノ財産ヲ以テ主神ノ貧者
 ニ賜フ所ノ物トナシ己レ少シモ用ウルコトナク尽ク貧者ニ
 分ナタリ其後二人モ亦祖母ノ志ヲ續キ身ヲ氷雲ニ任シ東
 方ニ巡拜セントシ祖母ト共ニ羅馬ヲ去リ海ヲ渡リテ亞弗
 利加ニ至リ數月ノ間滯留シ此ノ地ノ親戚朋友ヲ訪ヒ諸所
 ニ濟施シ此地ノ産ヲ捐テ聖堂ヲ建立シ虜者ヲ贖ヒ放チ行
 々又貧者ヲ贖ヒ東方ニ到テ聖ナル諸隱士ヲ訪ヒ聖趾ヲ巡
 拜シツ、耶路撒冷城ニ到リタリ後幾クモナクシテ老婦米
 拉尼亞ハ平安ニシテ神靈ヲ神ニ捧ケ世ヲ逝リタリ其孫ハ其

務ヲ續キ行ヒ橄欖山ノ麓ナル祖母ノ隱房ニ棲ミ或ハ祈禱
 シ或ハ聖書ヲ讀ミテ神ノ好ム事ヲ行ヘリ至福ナル耶羅尼
 木此ノ時聖書ヲ譯スルカ爲メ耶路撒冷ニ在リシカ種々ノ
 教訓ヲ以テ米拉尼亞ヲ助ケタレハ米拉尼亞大ニ力ヲ得慈
 善ナル行ヲ爲シ貧者ヲ助ケ病者ヲ看護シ夫非ヒニ昂ニモ其務
 ナ分任シ病院及ヒ客舍ヲ造リ神ヲ讚揚シツ、最ト貧キニ
 安ンセリ一月十二日我正教會ハ小婦米拉尼亞ヲモ記念セ
 リ
 此ノ日又孤獨者ヲ養育シタル長老ヅテクヲ記念セリ此人
 ハ大帝君士坦丁ノ時召サレテ帝京ニ到リ命ヲ奉シテ病院

ト客舍トヲ造リテ亦已レノ時ト財トヲ是ノ善事ノ爲ニ費
 シ而ソコンスタンチイ帝ノ時遂ニ致命セリ其受ル所ノ苦
 難ノ景情如何ナルヤ詳カナラス

聖大和志理乙ノ傳十三日

聖大和志理乙ハ大約三百三十年ノ比ニ伽怕多カハタ家郡ノ都會
 ナル該撒利亞城ニ生レタル人ナリ和志理乙ノ家ハ先祖ヨ
 リ世々厚ク眞神ヲ信仰シ品行何レモ最ト虔敬ニシテ衆人
 ニ越エ親族中ニモ基督ノ聖名ノ爲ニ屢々窘逐セラレテ遂
 ニ致命スル者少ナカラサリキ和志理乙ハ幼ナルキ祖母馬
 克利那ト與ニ故里該撒利亞ニ居リシカ此ノ最ト虔敬ナル

老婦ハ常ニ和志理乙ノ心ニ神ヲ愛スルヲ植エ又子オケ
 サリヤニ居ル父母モ亦神ヲ愛スヘキト言行一致ニテ諭
 シケレハ和志理乙ハ益々基督教ノ真理ヲ曉リタリ和志理
 乙ハ姉馬克利那モ賢女ナレハ父母ヲ扶ケテ多クノ子女ヲ
 鞠育セリ蓋シ神ノ聖書ヲ學ヒ主神ヲ愛スルヲハ此家ノ大
 本ナレハ子女等ニ日時聖書ヲ讀ミ神ノ道ヲ守ルヲ誨ヘ救
 主ノ聖旨ヲ行ハントスル目的ヲ起サシメンカ爲ナリ聖和
 志理乙ハ成長ノ後テ書ク曰ク「我レ幼童ノ時我カ虔敬ナル
 母及ヒ祖母ヨリ學ヒ得タル神ノ道ハ我カ智ノ進ムニ從ヒ
 テ益々我心ニ長シタリト」父母ハ幼童ナル和志理乙ノ最ト

聰敏ナルヲ視テ善良ナル教育ヲ受ケシメント欲シ先ツ該
 撒利亞城ノ小學校ニ入レ學ハシメシニ業大ニ進ミシカハ
 羅馬ノ都府ナル君士坦丁堡ニ遊學セシメ後又此ノ時文學
 技藝ノ最ト開ケ著名ニシテ教師及ヒ學校ノ多キ希臘ノ都府
 雅典ニ留學セシメタリ和志理乙ハ雅典ノ學校ニ在リテ日
 夜怠ラス勉メシカハ未タ幾ハクナラサルニ學業大ニ進ミ
 雅典ノ秀才ナル學生ノ一人トナレリ然ルニ雅典城ニ寓ス
 ル少年輩ハ最ト確固ナル志アル者ニアラサレハ多クハ一
 身ヲ誤ルノ恐レアリ其ハ此ノ都府ニハ異邦ノ學(當時ノ理學)
 最ト盛ニシテ街衢ニハ多クノ偶像邪神アリ且ツ智者學

士博士ト呼バル、輩ハ皆基督教ヲ誹リ基督徒ヲ卑シメテ
 偶像邪神ニ俯伏スルヲテ教ユ而シテ其學術技藝文學行爲
 等總テ異邦ノ風習ニ感シ易ケレハナリ然レヒ和志理乙ハ
 幼童ノ時父母ノ家ニアリテ眞實ノ教ヲ學ヒ信心固ク品行
 正シキ人ナレハ容易ク此等ノ誘惑ヲ拒キタリ
 聖大和志理乙カ此ノ都府ニ留リタル時グリゴリイト云フ
 虔敬ナル一少年ト交テ結ヒ無二ノ親友トナリタリ〔グリゴ
 リイハ後ニ帝都ノ大主教トナリ聖神學者グリゴリイノ稱
 ナ得タリ〕此ノ二人ハ常ニ異教ノ盛ナル城市ニ住ミ世俗ト
 異邦トノ學藝ニ沈溺セル伴侶中ニ在リナカテ獨リ堅ク神

ノ誠メテ守リテ益々基督徒ノ品行ヲ修メ決シテ遊戯場ニ行
 カスノ唯神ノ聖堂ト學校トニ至ルノ外他事ナカリキ斯ク
 雅典ハ人々ノ心ヲ傷ヒ品行ヲ乱ス可キ者多ケレヒワシリ
 イトグリゴリイノ二人ハ常ニ種々ノ誘ト様々ノ惑ト戰ヒ益
 ヲ信仰ヲ堅フシ且ツ異教ノ奧義ヲ探リ其偽リナルヲテ看
 破シテ彌々基督教ノ眞理ナルヲテ悟リ全心全意ヲ尽シ此
 ノ道ヲ遵守セリ
 同氣相求ノ同心相和ノ結ヒタル二人ノ友誼ハ日ニ月ニ益
 ヲ深テ加ヘタリグリゴリイ己カ雅典ニ在リシ時ノ事ヲ述
 ヘシ書ハ今猶存セリ其己カ友ト親シキヲテ記シ曰ク我等

二人ハ一體ナリ我等二人ハ無二ノ親友ナリ我等二人ハ同食セシ輩ナリ我等二人ハ一骨一肉ナリト又我等ハ志ヲ同ウシテ互ニ相愛シ日ニ月ニ親シミテ加ヘタリ我等二人ハ同業ニシテ道德ヲ脩メタリ我等二人ハ同ク勉メテ地上ノ物ヲ避ケテ天上永遠ノ樂ヲ得ンコトヲ勵ミタリ我等ハ廉節ノ士ト交リ卑陋ノ人ト交ラス兇暴ノ人ト親マスシテ温和ノ人ト親シミタリ又我等ハ雅典ニ在リシ時唯二ノ道ヲ知ルノミ即チ一ハ最ト秀タル道ニシテ聖堂及ヒ教父ノ許ニ至ルノ道是我等ノ爲メニ第一緊要ノ道ナリ二ハ世ノ學術教師ノ側ニ至ル道ニシテ第一ノ道ニ較スル能ハサルモ我等ノ

爲メニ亦緊要ノ道ナリ彼ノ劇場遊宴祭祀等ニ至ルノ道ハ我等其行カント欲スル者ニ任シタリト
雅典ニ留マルハ學生ノ爲ニハ善果ヲ結フコト多クハ難シ大君士坦丁ノ姪由利昂ハ此ノ親友ナル二人ト俱ニ學ヒシ人ナレヒ此ノ都ヨリノ却テ基督ノ聖教ヲ痛ク惡ムコトヲ學ヒケレハ後チ羅馬ノ帝トナルニ及ンテ嚴シク基督徒ヲ窘逐スル者ノ一人トナリタリ
和志理乙ハ五年ノ間雅典ニ留學セシカハ學業大ニ進ミ著名ナル博士トナリテ故里該撒利亞ニ歸リシ時父ハ已ニ此世ヲ逝リケレハ郷人ハ直ニ父ノ職ヲ襲キ神學校ノ教父ト

ナランコトヲ勸メタリ然レモ和志理乙ハ未タ一身ノ住處ヲ定メス先ツ救主ノ苦ヲ受ケ死シ玉ヒシ聖蹟ニ詣リテ深ク聖書ヲ究メ且ツ當時ノ隱士等ノ偉行ヲ見ント欲シ第一ニ洗禮ヲ領ケンコトヲ願ヘリ其ハ當時信仰厚ク品行正シク能ク基督徒ノ本分ヲ尽シ深ク神ヲ愛スル者ニ非サレハ聖體機密ヲ受クルヲ得ス如何ントナレハ未タ洗禮ヲ領ケサレハナリ昔時基督徒ハ多ク成人ノ後洗禮ヲ受クルノ習ハセアレハ此時和志理乙モ未タ洗禮ヲ受ケサリキ或ル傳ニ云フ和志理乙ハ該撒利亞ノ主教デアニヨリ洗禮ヲ受ケタリト又云フ和志理乙ハ約但ニテ耶路撒冷城ノ主教ヨリ聖

洗ヲ受ケタリト又云フ耶路撒冷城ノ主教カ和志理乙ニ洗禮ヲ授ケシキ天忽チ電閃シ光中ヨリ一ノ白鴿約但河ニ降り水ヲ動カソ再ヒ天ニ飛ヒ上リタリト聖和志理乙ハ救主ノ聖墓ニ詣リ後バリステナ米所波大米埃及等ヲ巡リテ多クノ隱士ヲ訪ヒタリ是ノ時ヨリノ修道大ニ開ケ曠野森林深山幽谷處トシテ隱士ノ庵アラサルハナシ隱士ハ家ヲ出テ親族ニ別レ故里ヲ離レテ孳然獨棲シ高節ヲ立テ恒ニ祈禱ト苦行トヲ勉メ或ハ品行嚴肅ニシテ虔敬ナル教父ニ隨テ專ラ神ニ奉事セシ者ナリ和志理乙ハ隱士等ノ潔キ渡世ヲ見テ大ニ感シ因テ己モ彼等ノ如ク清

ク一生ヲ送ントノ志ヲ決シタリ
 聖和志理乙ハ歸途暫ラシ雅典ニ止マリ素ト己ノ師ナリシエ
 ウトルニ遇ヒ論弁シテ遂ニ神ニ歸セシメタリ此時二人ハ
 相與ニ精神ヲ尽クシ三日三夜論辨シテ寢食ヲ忘レタリト
 云フ
 碩學宏才ノエウールハ基督教ノ眞理ナルヲ悟リテ遂ニ
 洗禮ヲ受ケタリ或ル日和志理乙ニ問テ曰ク「最上ナル智慧
 ハ那邊ニアリテ存スルヤト和志理乙答テ曰ク「死ヲ覺ルハ
 アリ」ト宜ナル哉此ノ言ヤ人若シ殊ニ己ノ死スルヲ思ヒ
 ナハ決シテ浮雲ノ如キ定リナキ今世ノ喜樂ノミヲ慮ラス

シテ必在天ノ限リナキ幸福ヲ得ンヲ慮ルベシ

和志理乙ハ故里ニ歸リシ後本都郡イリス河ノ邊ニ最ト美

ナル草最ト珍ラシキ樹木、清泉ノ左右ニ生茂セルヲ見一ノ

庵ヲ結ヒテ常ニ祈禱ヲナシ朝夕神ノ創造シ玉ヒシ萬物ヲ

囑ソツ、最ト潔ヨク日ヲ送リケルカ其母及ヒ其姉マ克利

那モ亦河ノ對岸ニ來リテ女修道院ヲ建タリ

聖和志理乙ハ親友ナル聖グリゴリイニ送リシ書翰中ニ已

カ住スル野居ノ最ト美ナル景ヲ記シ又端ナキ此世ヲ遁レ

俗ヲ離レ專ラ神ニ奉事シ恒ニ祈禱シテ心ヲ神ニ向フハ大

ニ已レニ益アルヲ記セリ和志理乙カ此ノ野ニ遯レテ未タ

數年ナラサルニ神ニ己ノ生命ヲ獻セシ虔敬ナル人々ハ遠
 近ヨリ尋ネ來リテ偕ニ居ランヲ乞ヒシカハ和志理乙ハ
 素ヨリ世ヲ遁レ野ニ住メルモ世ニ公利公益ヲ爲サントテ
 志シケレハ直ニ之ヲ諾シーノ修道院ヲ建テ又其ノ規則ヲ
 設ケシニ皆謹ンテ之ニ循ヒタリ此規則ハ今ニ至ル迄テ正
 教會修士ノ規範トナレリ
 聖和志理乙ハ間暇ヲ以テ大惡トナシ常ニ兄弟等ヲ勞動セ
 シメ已モ祈禱ノ外ハ聖書ヲ讀ミテ之ヲ註シ或ハ耕ソ草木
 ヲ植エ休ムコトナカリシカ其ノ親友ナルグリゴリイモ屢々
 來リテ偕ニ此ノ業ヲ爲シタリトゾ

聖グリゴリイモ聖和志理乙ノ如ク世ヲ遁レント思ヒドモ
 其父ハナツアンズノ主教ニシテ已ニ老衰セシ身ナリケレ
 ハ父ノ側ヲ離ル、ヲ得ル能ハサリキ
 此ノ時教會ニ大ナル爭論起リケレハ和志理乙モ久シク
 已カ意ニ叶ヒシ野ニ遁レ居ルコト能ハス其ハアリイノ異端
 益々羅馬國ニ蔓延シ正教人、カヲ尽シテ之ヲ拒カサル可カラ
 サレハナリ和志理乙カ最ト敬虔ニシテ碩學ナルコトハ世人
 ノ知ル所ナレハ正教會ノ主教和志理乙ノ庵ニ至リテ再
 ヒ世ニ出テ邪教ヲ拒キ正教ノ光ヲ輝カサントテ勸メケレ
 ハ和志理乙モ是ソ世人ノ益ナラント思ヒ再ヒ庵ヲ出テ教

會ノ事ニ從事シタリ
以下多クアリイノ邪教ノコアルカ故ニ先ツ其ノ邪教ノ發
端ヲ記セン

亞歷山大教會ノ長老アリイハ大帝君士坦丁ノ時異端ヲ唱
ヘテ曰ク神ノ子耶蘇基督ハ神父ト同シキ神ニアラス父ハ
基督ヲ造リ之ニ巳ノ性ヲ賦スルナリト斯クノ如ク聖書ニ
戻レル言ニ惑サル、者日ニ月ニ盛ニシテ爭論四方ニ起リ
ケレハ大帝君士坦丁ハ是ノ紛論ヲ鎮メントノ三百二十五年
ニ基亞城ニ公會ヲ開キ諸主教ヲ招キタリ是テ尼基亞ノ第
一全地公會ト云フ是ノ公會ニ於テアリイノ異端ヲ闕除シ

明ニ其邪教ナルヲ証シ其ノ職ヲ剝キ流罪ニ處シ且ツ一
ノ信經ヲ著ハシテ確カニ神ノ子ハ父ト一体ニシテ生レテ
造ヲ受クル者ニアラサルヲ定メタリ其後第二公會ノ時
是ノ信經ニ聖神ノ事ヲ加ヘタレハ正教會ハ今ニ至ルマテ
少シモ變ゼズシテ之ヲ守レリ尼基亞公會ノ後數年ヲ經テア
リイハ配所ヨリ召還セラレシカハ彼ノ異端ハ再ヒ勢ヲ得
テ大ニ蔓延シタリ其ノ後君士坦丁帝崩セシカ其子コンス
タンタイハ東帝ノ位ニ即キ深クアリイノ異端ニ感シ邪黨ヲ
扶ケテ痛ク正教ノ基督徒ヲ苦メ主教等ノ職ヲ奪ヒアリイ
教ノ人ニ此ノ職ヲ嗣シメタリ然レモアリイ黨中ニモ亦爭

起テ遂ニ全アリイ半アリイノ二派ニ分レタリ斯ク偽教
 弘衍シテ到ル處ニ紛乱ヲ起シケレハコンスタンティハ此ヲ
 鎮定セント思ヒトモアリイ黨ノ主教等ハ此會ヲ二分セシ
 カハ西方ノ主教等ハ伊他利亞國ノリミニ城ニ會シ東方主
 教等ハセレウキヤニ集レリ此ノ公會ノ時和志理乙ハ該撒
 利亞教會ノ讀經者ナリケレハ公會ニ與カリ雄辨ヲ揮テ大
 ニ抗論セシモ王宮ニアリイ黨ノ權重キ者多ケレハアリイ
 黨ハ遂ニ勝ヲ得テ別ニ信經ヲ著シ一休ノ言ヲ變シテ似、
 ト爲セリ皇帝コンスタンティハ直ニ主教等ニ命シテ此ノ信
 經ヲ承認セシメ承ケサル者ハ流罪ニ處セントセシニ此ノ

罰ヲ恐レテ捺印スル者多カリキ該撒利亞ノ主教デアニイ
 モ和志理乙ノ諫ヲ聽カス己カ心ニ反シテ捺印セリ此時和
 志理乙ハ己ノ主教カ正教ニ背キタル故、眞理ノ伸ヒサルヲ
 嘆息シ主教ニ事フルヲ欲セスシテ再ヒ曠野ニ遁レテ異
 端ヲ斥ケ或ハ修士等ニ誨ヘテ邪說ヲ拒キ或ハ信者ノ爲メ
 書ヲ著シタリ即チ神ノ審判、信ノ事、行ノ規則等ノ諸篇ナリ
 然ルニ此紛乱猶止マサリシカコンスタンティノ死スル後由
 利昂帝又基督徒ヲ窘逐セシカ在位僅ニ二年ニシテ死セシ
 ヌエ尽ク惡謀ヲ遂ケ行フ能ハサリキ後チイオライアン帝カ
 位ニ在ル時ハ教會平穩ナリシカワレント帝位ニ即クニ及

テ基督徒等亦窘逐セラル其ハ此ノ帝ハ深クアリイノ偽教
 ニ惑フテ銳意ニ之ヲ弘布セント盡力スレハナリ
 此時和志理乙ハ屢々己ノ愛スル曠野ヲ出テ熱心ニ該撒利
 亞ノ主教デアニイヲ扶ケ弱者ヲ勵マシ信者ヲ堅メシカデ
 アニイノ後職ヲ嗣キシ主教エウセワイハ性質善良ナレモ
 未タ教會ノ事務ニ練達セサル故斯、ル困難ノ時ニ方リ教
 會ヲ治理スルヲ能ハサリシカハ助テ聖和志理乙ニ求メタ
 リ和志理乙ハ其求ヲ諾シ直チニ該撒利亞ニ至リテ司祭ノ
 職ヲ受ケ力ヲ尽シテ能ク教會ヲ治メシガエウセワイ衆人
 ノ和志理乙ヲ賞嘆スルヲ見テ大ニ妬ミケレハ和志理乙ハ

親友ナルグリゴリイト與ニ再ヒ曠野ニ遁レタリ
 其後幾クモナラサルニ主教エウセワイハ己ノ薄力ナルヲ
 テ悟リ又助テ和志理乙ニ請シカハ和志理乙ハ再ヒ該撒利
 亞ニ至リ其教會ヲ治メ銳意ニアリイ黨ノ謀計ヲ拒キテ眞
 ノ道ヲ全郡ニ布ントシ毎日或ハ日ニ二度基督敎ノ定理ト
 基督徒ノ職分ヲ講シ最モ巧ミニ森羅万象ノ美景ナルト神
 ノ造リ玉ヘシ物ハ皆正シキ順序ノ整ヒシヲト神ノ大ナル
 智慧ト深キ仁愛トヲ演ヘ聽衆ニ神ニ感謝スルノ情ヲ起シ
 常ニ善行ヲナシ神ノ誠ヲ守リテ基督徒タル証ヲ顯ハサン
 トヲ勸メ又隣ヲ愛シテ之ヲ惠ムヘキ理ヲ説キ而シテ己カ

言ト行狀トナ以テ其規範ヲ示シタリ和志理乙ハ常ニ身ニ
纏フル敝衣ト聖書數冊ノ外餘物ヲ貯ヘサレト該撒利亞城
ニ病院貧院旅館等ヲ建テ其廣大ナルヲハ神學者グリゴリ
イカ之ヲ稱シテ全城ト謂ヘル言ニヨリテ知ル可シ或ル時
該撒利亞ニ大ナル饑饉アリケレハ聖和志理乙ハ富者ニ説
キテ貧者ニ施サシメ自ラ母ノ遺産ヲ賣リテ基督徒異教人
猶太人ニ論ナク凡テ貧者ニ施シタリ斯ク公利公益ヲ計リ
テ倦マサル和志理乙ハ自ラ病者ヲ顧ミ孤獨ヲ恤ミ或ハ修
道院ノ規則ヲ編ミ或ハ少年教育法ヲ設ケ又屢々詞訟爭論
ヲ裁決シ強者ヲ挫キ弱者ヲ扶ケ固有ノ權利ヲ伸張セリ其ハ

此時ハ教會ノ法ヲ以テ時々世事ヲモ裁判スレハナリ
此ノ時和志理乙ハ聖神ノ默示ニ由テ聖體禮儀式ヲ定メテ正
教會ハ今モ之ヲ聖大和志理乙ノ聖體禮儀ト稱シテ年ニ之
ヲ行フコト十回ニシテ即チ一月十三日大和志理乙ノ祭日復
活大齋中五ノ日曜日大金曜日大土曜日降誕祭及ヒ聖三者
祭ノ前日ニ之ヲ行フ若シ降誕及聖三者祭日カ日曜或ハ土
曜ニ當ル時ハ當日ニ於テ之ヲ行ヘリ我等恒ニ用ウル儀式ハ
金口伊望カ日々聖體機密ヲ行フカ爲ニ和志理乙ノ式ヲ畧
セシ者ナリ和志理乙尙此ノ外ニ多ク祈禱文ヲ著シタリ
主教エウセウイハ此ノ世ヲ逝ル時和志理乙ヲ招キ群衆

テ托シテ主教ト爲サント欲スレモ和志理乙ハ常ニ嚴シク
 信者ノ過ヲ責ムル故多クノ人ハ和志理乙ヲ撰擧スルコトヲ
 拒ミタリ時ニグリゴリイノ老父ナツアンズノ主教ハ和志
 理乙ヲ撰ハサルコトヲ聞キ自ラ駕シテ該撒利亞ニ來リ和志
 理乙ヲ主教ニ擇ヒタリ
 和志理乙ハ主教ノ職ニ就テヨリ銃意倦ムコトナク益々教會
 ナ整ヒ殊ニ信者等ヲ一致セシメンコトヲ謀レリ其管轄ハ小
 亞細亞諸都本都加拉太アルメニヤノ諸教會ニシテ此時諸
 教會ハアリイノ異端ノ爲ニ乱タサレケレハ和志理乙數々
 書ヲ以テ信者等ヲ教ヘ勵マシタレハニツサノ主教タリシ

弟グリゴリイ及其親友ナル神學者グリゴリイ及ヒサモサ
 トノ主教エウセウイ等モ之ヲ助ケ同心協力シテアリイノ
 異端ヲ斥ケタリ

皇帝ワレントハ熱信ナルアリイ黨ナレハ和志理乙等カア
 リイノ教ヲ闢除スルヲ見テ默スルコト能ハス自カラ該撒利
 亞ニ往キテ之ヲ諭サント欲シ先ツ近臣モデストヲ遣ハシ
 テ和志理乙ヲシテアリイノ教ニ從ハシメントセリ
 モデスト該撒利亞ニ至リ和志理乙ヲ諭シタレモ其心ノ動
 カサルヲ見テ恐嚇シテ曰ク汝若シ王命ヲ聽カスンハ流罪
 沒産殺戮ノ三刑中ニ處セント和志理乙少モ驚ク色ナク泰

然トシテ答テ曰ク「汝若シ我ヲ嚇サントセバ他ノ物ヲ以テ嚇セヨ流罪ハ我カ少シクモ恐ル所ニ非ス其ハ到ル所皆主ノ地ナレハナリ汝我産ヲ奪ハント欲スルヤ我ニ一物ナケレハ汝奪フ能ハサラン汝我ヲ殺サントスルヤ我レ少シクモ恐レサル也其ハ死ハ我ヲ速ニ主ノ側ニ至ラシメ永キ生命ト安樂トヲ得ルノ欣喜アレハナリトモデスト此ノ言ヲ聞キ驚キテ曰ク未タ汝ノ如ク憚ラスシテ語リシ者アラズ」ト和志理乙曰ク汝ハ未タ主教ト語リシナカリシナラシト此ノ時モデストハ若シ和志理乙カ帝ノ旨ニ従ハ、教會ノ益トナル可キヲ説テ曰ク「汝若シ唯信教ノ一体ノ一言ヲ

易ヘナハ大帝ハ必汝ノ教會ニ入り玉ハシ是レ教會ノ大ナル益ニ非スヤ和志理乙曰ク「若シ帝我カ教會ニ入り玉ハ、是レ帝ノ爲ニ大ナル益ナリ其ハ帝ノ魂ハ救ハルヘケレハナリ然レヒ我カ信經ノ一言ヲモ易ルヲ能ハサルナリ」トモデスト坐テ立テ曰ク「汝明日マテ此ノ事ヲ考ヘヨ」ト和志理乙曰ク是レ無用ナリ我心ハ今日モ明日モ少異アルヲナシト

其後ワレント帝自ラ該撒利亞ニ至リシガハモデストハ和志理乙ノ從ハサル旨ヲ奏シ威力ヲ用キ玉ハシテ勸メタレヒ帝自ラ和志理乙ヲ諭サント欲シ神顯祭ノ日聖堂ニ至

リ聖和志理乙カ行フ所ノ聖體禮儀ノ最ト嚴カナルヲ見テ
 大ニ感シ一言ヲモ發セズシテ歸リ禮物ヲ遺リタリ後チ帝
 再ヒ聖堂ニ至リ至聖所ニ入り久シク和志理乙ト談シタ
 リシカグリゴリイカ云ル如ク此日和志理乙ノ言ハ帝ノ耳
 ニ恰モ神ノ聖言ノ如ク聞エタリト
 然レ厄斯ク平穩ナルトハ暫時ニシテアリイ教ノ人ハ又帝
 ニ和志理乙チ譏シテ遂ニ流罪ニ定メタリ和志理乙カ既ニ
 道ニ就キシ時皇子俄ニ病タレハ帝以爲ラク是レ神ノ嚴
 罰ナリト急ニ前ノ宣告ヲ改メ和志理乙ヲ召シ還シ皇子ノ
 爲ニ祈ラントテ請ヒ和志理乙ノ祈禱ニ因リ皇子ノ病直ニ

愈タレトモ幾クモナクシテ死シタリ然レハ帝ハ再ヒ和志理
 乙ヲ苦メス其後國內所々ニ酷シキ窘逐起リタレトモ伽怕多
 家ハ至テ穩ナリキ

聖和志理乙ハ獨能ク巳ノ教會ヲ治ムルノミナラス常ニ諸
 教會ヲ和合センコトヲ務メアルメニヤニ往キテ聖ソレテイ
 チ助ケ西方ノ主教等ニ東方ノ會事ニ與カリ正教ヲ守リテ
 苦テ受クル兄弟ヲ救ハンコトヲ勸メタリ

聖和志理乙ハ素ヨリ弱質ナルカ斯ク苦勞セシ故大ニ疲
 レタレトモ精神益々活潑ニシテ彌々教會ノ事ニ力ヲ尽シタ
 リ和志理乙、身ノ疲勞セルノミナラス心ニ憂フルコト多カリ

キ其ハ一ノ友人ハアリイノ教ニ移リサモサトノ主教エウ
 セツイワレント帝ヨリ逐ハレ著名ナル正教ノ保護者亞歷
 山太ノ主教アフナシイハ此ノ世ヲ逝リ而シテ邪教ハ日ニ
 月ニ勢ヲ得テ數々和志理乙ヲ讒シ友朋ノ中ニモ心變セシ
 者アリ或ハ苦メラル、者アレハナリ然レハ彼ノ竹馬ノ友
 ナルグリゴリイハ少シモ心變セサレハ和志理乙ハ悲歎中
 ニ大ニ已ノ心ヲ慰メタリ此ノ事ヲ記セシ書ハ今ニ至ル迄存セ
 リ是ニヨリテ之ヲ見レハ和志理乙ハ溫柔ニシテ厚情ナル
 人ナルヲ知ルヘシ和志理乙善クエフレムシリシテ遇シ
 又メデヲランノ聖主教アムプロシイヲ撰舉セリ

此ノ後ワレント帝ハ軍中ニ崩シケレハ寤逐モ漸ク止テ教
 會モ最ト穩カニナリタリクヲチヤンカ帝位ニ即クノ始、令
 チ出シテ正教人ヲ苦ルヲチ嚴禁シ配所ニアル主教等ヲ召
 シ還シケレハ和志理乙ハ少シク心ヲ安シタレヒ病ノ爲ニ
 身体疲レケレハ遂ニ三百七十八年一月十三日ニ行年四十
 九歳ニシテ此ノ世ヲ逝リタリ
 傳ニ曰フ和志理乙カ此世ヲ逝ラシトスル時猶太人ニシテ
 該撒利亞ニ住ミシ高名ナル醫士某其病ノ危キヲ見テ家人
 ニ和志理乙カ病重クシテ明朝マテ生存セサレハ早ク埋葬ノ
 備ヲ爲スヘシト云シカ和志理乙之ヲ聞テ曰ク我若シ明朝

マテ生存セハ爾ハ洗禮ヲ受ルヤト醫士其命ノ保ヲサルヲ
 知リ「若シ爾、明朝マテ生存セハ我モ必信者トナリ洗禮ヲ受
 ケント堅ク約シテ歸リタリ聖和志理乙証テ神ニ願ヒ暫ク
 己ノ生命ヲ延^ハシ猶^ハ太人ヲ救ヒ玉ハンコト祈リケレハ神之^レヲ
 聽シタリ次朝ニ至リ醫士來リテ和志理乙ヲ見、大ニ驚キ其
 足下ニ俯伏シ大聲ニ呼テ曰ク「我今爾ノ神ハ真ノ神ナルヲ
 承認セリ速ニ洗禮ヲ受ント和志理乙曰ク「我自^ラ洗禮ヲ汝ニ
 授^ント醫士之ヲ止メテ曰ク「爾甚々衰^ヘタレハ起ツ能ハス」ト
 和志理乙曰ク「主必我ヲ健ニシ玉ハン汝愛フルコトナカレ」ト自
 ラ起テ聖堂ニ至リ祈禱シテ洗禮ヲ施シ聖体機密ヲ授ケ神

ニ奉謝シ而シテ家ニ歸リ其夜靜ニ永ノ寢^リニ就キタリトソ
 和志理乙世ヲ逝リシカハ伽怕多家ノ人々慈母ニ別ル、思
 ナ爲シ悲哀号哭ノ聲四方ニ聞エ男女長幼ノ別ナク皆出テ
 、其棺ヲ圍コミ病者ハ其体ヲ捫^シテ痊^ンコトヲ願ヒタリ
 正教會ニテハ二月十二日ニ神學者聖^グリゴリイ及金口伊
 望ト偕ニ再ヒ聖大和志理乙ノ紀念ヲ行ヘリ
 此ノ日又十二大祭ノ一ナル主ノ割禮ノ祭ヲ行ヘリ是レ舊
 約ノ時ニ新約ノ洗禮ヲ預象セル祭ナリ凡ソ男子生ルレハ
 第八日ニ割禮ヲ行ヒ以テ名ヲ命セリ故ニ救主降誕ノ時モ
 第八日ニ耶蘇ト名ツケタリ正教會ニテハ第一世代ヨリ此

ノ祭ヲ行ヘリ

○十四日

一月十四日ニ大帝君士坦丁ノ時羅馬ノ主教タリシ聖シリ
ウエストルノ紀念祭ヲ行ナヘリ彼ハ耶路撒冷城ニ於テ主ノ
尊貴ナル十字架ヲ發見セシ時太后エレナト與ニセシ人ナ
リト云

○聖預言者馬拉基ノ紀念十五日

聖馬拉基ハ基督降世ノ前四百年ノ頃ニ猶太人ガ巴比倫ノ
俘ヨリ歸リシ後ノ人ナリ馬拉基ハ猶太人カ宗教ノ外儀ヲ守リ
内心ヲ乱シ漸ク神ニ遠サカリタルガ爲ニ之ヲ詰責シ而シテ

主ノ道ヲ備フル前驅ノ顯レシヲ預言セリ馬拉基ハ舊約ノ
預言者中最モ後ノ人ニシテ彌西亞ノ降臨ヲ指シテ義ノ日
ト稱シタリ

○聖致命者格爾底乙ノ苦難同日

第四世代ノ時リキニヤ帝嚴シク基督徒ヲ逮捕シケレハ伽
怕多家郡ニ恐ルヘキ窘逐起リタリ此時信徒多ク基督ノ爲
ニ生命ヲ捨テ又艱難ノ止ムヲ待タンカ爲メ野ニ避クル者
モ多カリキ茲ニ一年少ナル兵士格爾底乙ト云ル者アリシ
カ故城該撒利亞ヲ棄テ亦野ニ逃レタリ然ルニ基督徒カ益
々艱難ニ逢フノ野ニ聞エケレハ格爾底乙ハ其ノ兄弟等

カ基督ノ聖名ノ爲ニ難ヲ受ケ又ハ殺サル者ノ多キ時己レ
 獨リ野ニ隱レテ無難ニ安スルノ善カラザルヲ悟リ遂ニ城
 ニ歸リ明カニ己ノ信ヲ認メンコトヲ決心セリ一日該撒利亞
 ニテ邪神ノ一ナルマルスヲ崇メ祭ルカ爲ニ大ニ騒動ヲ起シ
 タリ此時全城ノ人ハ競馬場及他ノ觀場ニ集リシカ頓カニ
 集民中ニ在天ノ神ヲ讚揚スル者アリ衆人驚キテ其人ヲ見レハ
 是レ格爾底乙ナリ群衆中格爾底乙ノ親戚及朋友モ多カリ
 ケルカ格爾底乙ハ身ニ破衣ヲ着ケ顔色枯稿シテ久シク勞
 役スル者ノ如クナレバ人皆初ハ其格爾底乙ナルヲ識ラサ
 レ凡後其勇毅ニシテ嚴シキ筭逐ノ時ニ基督ノ聖名ヲ讚揚

スル格爾底乙ナルヲ識リタリ其必死ニ付セラル可キヲ見
 テ之ヲ憐ミ格爾底乙ヲシテ默セ使メントセシニ兵士既ニ
 格爾底乙ヲ捕ヘテ競馬場ノ騎士ニ賞典ヲ與フル知事ノ處
 ニ引キ至レリ
 知事之ニ問フテ曰ク「汝ハ誰ニ且何處ヨリ來ルヤ格爾底乙
 曰ク「我ハ基督徒ナリ爾ノ神ヲ尊ハス」ト知事其答ヲ聞テ大
 ニ怒リ命シテ之ヲ苦メタリ格爾底乙泰然トシテ聲ヲ高フ
 シ大關王ノ詩ヲ誦シテ主ハ我ヲ助クル者人我ニ如何ノ事
 テ行フヲ懼レズ又人ノ惡行ヲ懼ル、コトナシ蓋主爾ハ我ト
 借ニスレハナリ」ト云ヒツ、諸ノ苦難ヲ耐忍シ且ツ刑吏ニ

謂テ曰ク「爾宜シク苦ヲ増ス可シ何ソ逡巡スルヤ着ヲ以テ
 掩ハル我カ身ハ是レ朽チサル衣ヲ以テ飾ルナリ」ト
 知事ハ其ノ泰然トシテ屈セサルヲ見レテ尙彼ヲ基督ヨリ背
 カシメ他人ノ龜鑑ト爲サント欲シ暫ク苦ヲ緩フメ曰ク「爾
 基督ニ背離セハ必爾ニ高位重賞ヲ與ヘン」ト言テ尽シテ之
 ナ論シ其信ヲ變セ使メントシテ格爾底乙ヲ誘ヘリ
 格爾底乙曰ク「爾何物ノ天國ニ勝ル者ヲ以テ我ニ與フルヲ能
 クセンヤ」ト知事其屈セサルヲ見テ遂ニ格爾底乙ヲ死刑ニ處
 スルヲ命セリ刑場ニ登ラントスル時親戚及朋友其後ニ從ヒ
 格爾底乙ニ父母ノ老衰ナルト己ノ小弱ナルトヲ願ミテ死

ヲ免ルヘキヲ勸メタリ

格爾底乙曰ク「諸君何スレソ我ヲ涕泣スルヤ宜ク我等ヲ害
 逐スル神ノ敵ヲ涕泣ス可シ彼等ハ我等ノ爲ニ火ヲ舉ケテ
 自カラ地獄ノ炎ニ備ヘ審判ノ日ニ震怒ヲ集ムル也我ニ於
 テ何ゾ關セン我ハ是レ基督ノ爲メニ死ヲ決スル丁己ニ一
 次ニアラズ」ト

然ルニ親戚等悲嘆涕泣シテ止マズ格爾底乙ニ其失フ所ノ
 世ノ歡樂ヲ言ヒツ、己ノ生命ヲ救フヘキヲ勸メテ曰
 ク「爾一言ニテ能ク己ヲ救フベシ其ハ言語ニテ唯基督ニ背
 離シ心中ニ信向ヲ守ラバ見サル所ナキノ主ハ必ス汝カ心

中ノ信ヲ見テ汝ヲ罰セス」ト
 格爾底乙答テ曰我レ吾カ主ノ我ニ賜ヒシ舌ヲ以テ安ツ主
 ニ背離スルヲ得ンヤ聖書ニ謂ヘルアリ曰ク「夫レ人ハ心ニ
 信シ以テ義ト稱セラレ口ニ認メ以テ救ヲ得ル」ト（羅馬十章ノ十）我
 等一言以テ罪セラレ一言以テ義ト稱セラル也主又我ヲ人
 前ニ棄ツル者ハ我レ亦彼ヲ我カ天父ノ前ニ棄テント謂ハ
 レシニ非スヤ我ハ諸ノ詐偽ヲ去リ眞理ヲ認ソント言ヒ終
 リ天ヲ仰テ祈禱シ十字架ヲ畫シ從容トシテ頭ヲ低レ斬首
 セラレタリ

該撒利亞ニ於テハ殊ニ聖格爾底乙ノ記念ヲ尊トヘリ聖大和

志理乙ハ格爾底乙ヲ讚スル詞ヲ作レリ我等ハ致命者ノ
 例ニ依リテ如何ニ聖ニ眞理ヲ守ルヘキヤ如何ニ堅ク基督
 ノ聖名ヲ認メテ其ノ律法ヲ守ル可キヤヲ學ハン聖格爾底
 乙ハ死ヨリ救ハレシカ爲メ堅ク信ト眞理トヲ易ヘサリキ
 凡ソ世ノ利益、歡樂、苦責、誹謗ハ屢々我等ヲシテ主ノ律法ニ
 背離セシムレハ我等勉メテ恒ニ言行ヲ以テ主ヲ認メ世ノ
 何等ノ幸福ニ遇フモ彼ノ神出ナル律法ニ背離セサルヘシ
 願フハ聖者ノ祈禱ニ依リ我等モ亦天宴ニ與ラン

○聖七十使徒ノ會十六日

聖福音者述テ曰耶穌基督ハ十二使徒ノ外ニ七十使徒ヲ擇

ヒ諸城邑ニ遣ハシ聖言ヲ傳ヘシメ奇蹟ヲ行フ力ヲ賜ヒ世俗
 ノ爲ニ務ムルヲ命セス人々ヲ永遠ノ生命ニ導ヒクヲ命
 シタリ此ノ七十使徒カ道ヲ四方ニ傳ヘ歸リテ主ニ就キ喜
 テ曰ク「主ヨ爾ノ名ニヨリテ惡广モ亦我ニ從ヒ其惡ヲ退シ
 フセス」耶穌答テ曰ク「爾之ヲ喜フ勿レ爾ノ名、天ニ録セラル
 ヲナ喜フ可シ」ト
 耶穌基督昇天ノ後、使徒等、聖神ノ恩佑ニ堅メラレ熱切ニ主
 ノ命スル務ヲ行ヒ碎身粉骨メ銳意ニ神ノ言ヲ諸城邑ニ傳
 ヘ四方ヲ周遊シ新ナル信者ニ父ト子ト聖神ノ名ニ依リテ
 洗禮ヲ授ケタリ異教人ハ正教ノ日ニ月ニ弘布スルヲ見使

徒去捕ヘ獄舎ニ縲キ困苦鞭撻メ之ヲ恐嚇スルモ使徒泰然
 トシテ忍ヒ受ケシハ聖使徒保羅録シテ我勤勞シテ苦ミ我
 テ譏スル者ハ我之ヲ祝シ我ヲ窘逐セハ我之ヲ忍耐シ我ヲ
 誹謗セハ我之レカ爲ニ祈禱セリト云ヒシ（哥林多後十一章廿一ヨリ以下ノ意）
 如クニソ實ニ其苦難ハ言語ニ絶シタルモ主ノ聖旨ヲ遵ミ
 行フヲ以テ主ノ恩ニ庇蔭セラレ諸ノ艱難ヲ堪ヘ忍ビ此ノ
 邑ニ窘逐セラレノハ彼ノ邑ニ遷リテ聖言ヲ傳ヘ而シ其言
 ヲ聽キ主ヲ信スル者モ亦窘逐セラレタリ然ルニ斯、ル窘逐
 アルニモ拘ハラズ正教益弘布ノ人心ニ堅立セリ而シ使徒
 ノ傳道ハ聖使徒保羅カ云ヒシ如ク私智婉言ヲ以テスルコ

アラス惟聖神ノ能力ニ係ルナリト(哥林多前二章四)斯ノ使徒ハ惟、
言ヲ以テ道ヲ傳ルノミナラス身自ラ謙遜、耐忍、相愛、作善等
ノ行ヲ爲シテ軌範ヲ與ヘ而シテ遂ニ致命者ノ永冠ヲ戴シ者
多カリキ

一月十六日正教會ハ七十使徒ヲ紀念シテ七十使徒ノ會ト
稱セリ其ハ信者相會シテ瞻禮スルカ故ナリ

○成徳ナル我等ノ母シグクリタイキヤノ紀念十七日

第四世代、修道士ノ漸ヤク隆盛ナルニ從ヒテ女修院モ亦創
マリケレハ多クノ處女ハ最ト嚴肅ニ祈禱ト勤勞トニ時日
ヲ送リテ常ニ善行ヲ爲セシカ修女中、特ニ著名ナルハシグ

シリタイキヤニテ馬基頓ヨリ亞歷山大城ニ遷リテ甚タ富貴
ナル人ノ家ニ養育セラレタル女ナリ幼年ヨリ常ニ如何ニ
モハ主ニ嘉ミセラレント此ノ事ノミ思慮シ自ラ勤勞ニ服
シ密ニ齋ヲ爲シ而シテ神ニ奉事スルカ爲ニ婚嫁ヲ肯ハザリ
キ

而親ノ死セシ後數多ノ遺産ヲ受ケタレヒ皆貧窶ノ人々ニ
分ケ與ヘタリ一妹アリ替者ナレバ之ト與ニ父母ノ墓側ニ
盧ヲ結ヒ世塵ヲ脱シ恒ニ祈禱シテ聖書ヲ讀ミ尤モ惡念ニ
勝ツヲ勉メタリシグクリタイキヤノ名ハ日ニ高ク月ニ揚
カリケレハ遠近ノ虔敬ナル女子等、爭テ其教訓ヲ受ケ其行

狀ニ倣フテ己カ靈益ヲ得、并ヒニ人ニ益セント欲ノ來ル者
 多ケレト由謙遜ナルシグクリテイキヤハ己ノ才能智徳ハ人々
 ナ教訓スルニ足ラサルト爲シ唯彼等ニ示スニ最ト高尙ニ
 ノ智徳ノ源因ナル聖書ヲ以テセリ時日ヲ經ルニ隨ヒ其門
 下ニ集ヒ來ル處女等、一ノ會社ヲ爲シケレハシグクリテイキ
 ヤモ今ハ教導ヲ避クル能ハサルニ至リ常ニ教テ曰ク「主ナ
 ル神ヲ愛シ隣ヲ愛スル已チ愛スルカ如クセヨ謹テ諸ノ辛
 苦艱難ヲ耐忍シ勤勞ニ服シ何等ノ功德アルモ之ニ誇ルコ
 勿レト」
 斯ク多クノ姉妹等ヲ教訓シツ、諸ノ功德、善行ノ總彙ヲ與

ヘタリシグクリテイキヤ平素多病ニテ最ト危キ時モ少シク
 モ苦メル色ナク欣テ曰ク「神我ヲ試ムルナリ」ト常ニ從容ト
 シテ能ク堪ヘサルノ苦痛ヲ忍ビ受ケ老年ニ及ヒ安然トシ
 テ世ヲ逝レリ(一説ニ享年八十ナリト)

シグクリテイキヤト同日神ニ生命ヲ獻セシ處女アボルリナ
 ーリヤヲ紀念セリ此ノ人ハフエヲドシイ帝幼年ノ時全國ヲ
 總理セシ議員アンフェーミーノ女ニシテ姿貌甚艶麗ナリ(歴史家
 ハアンフェーミーイテ)此ノ小婦アボルリナーリヤハ神ニ奉事
 稱シテ帝ト爲セリ)スルカ爲ニ悉テノ富貴ヲ棄テ修道女トナリタル者ナリ

○救主洗禮若クハ神顯祭

救主洗禮ノ祭ハ十二大祭ノ一ニシテ使徒ノ時ヨリ設立セリ
 昔時ノ聖師曰ク「此日ハ爾等必ズ重シ尊フ可シ蓋主ハ其神
 聖ヲ顯ハシシ日ナリト
 聖福音者等ハ主ノ洗禮ヲ受クル迄如何ニ渡生シ玉ヘルカ
 ナ我等ニ遺傳スルコト甚タ少ケレハ今之ヲ知ル能ハサルモ主
 ノ寶算三十歳ニ滿ル時司祭撒加利亞ノ子前驅約翰神ノ命
 ナ奉シ猶太ノ野ニ來リ民ノ最モ久シク待テタル主ノ降臨
 セシコトヲ報シ衆民ヲ改悔ノ洗禮ニ招キテ曰ク「爾宜シク改
 悔ス可シ蓋天國近シ」ト群衆約翰ノ傍ニ集ヒ來リテ其ノ教
 訓ヲ聽キシカ約翰ハ聖神ニ滿ラサレバ群衆互ニ謂テ

曰ク「此レ將ニ來ルヘキノ基督ニ非スヤ」ト然ルニ約翰之ヲ
 聞テ曰ク「我ハ水ヲ以テ改悔ノ洗禮ヲ爾ニ施スナリ然ルニ我
 ニ後レテ來ル者ハ我ニ先チテ在リ我其ノ履ノ帶ヲモ解ク
 ニ堪ヘス彼將ニ聖神ト火トヲ以テ洗禮ヲ爾ニ施サントス」
 ト語未タ終ラサルニ授洗約翰ハ救主ノ近ツクヲ見群衆ニ指
 示シ曰ク「此レ神ノ羔世ノ罪ヲ負フ者也」ト時ニ耶穌近ツキ
 テ約翰ニ洗ヲ施サントテ請ヒケルニ約翰辞シテ曰ク「我應
 サニ洗ヲ爾ニ受ク可シ爾反テ我ニ就クヤ」主曰ク「今姑ク吾
 ナ許セ吾儕當カニ是ノ如ク以テ禮ヲ尽ス可シ」ト乃チ之ヲ
 許セリ耶穌洗禮ヲ受ケテ水ヨリ上ル時天之カ爲メニ開ケ

上帝ノ神形ヲ鶴ノ如ク其ノ上ニ降臨シ且ツ天ヨリ聲アリ
 テ曰ク「此レ我カ愛子吾ノ喜悅スル所ノ者ナリ」ト
 奇異ナル哉是ノ如ク群衆ノ目前ニ三位ヲ含ムノ神、顯ハレ
 神父聲アリテ神子耶蘇基督ノ爲ニ証ヲ爲シ神聖神形ヲ鶴
 ノ如ク救世主ノ頭上ニ降臨セリ故ニ此ノ祭日ヲ稱シテ神
 顯祭ト云フナリ耶蘇基督洗禮ヲ受クルノ後世ニ出テ始メ
 テ群衆ニ教訓ヲ爲セリ是レ猶太ノ法律ニ遵守セシナリ其
 ハ猶太人ハ何人ニ論ナク三十歳ニ滿タサレハ司祭或ハ學
 士ノ職ニ就ク能ハサル規則アレハ也是ノ時ヨリソ凡ソ主
 ノ徒タラント欲スル者ハ父及子及聖神ノ名ニ依リテ洗

領シ此ノ聖ナル機密ニテ主徒ノ社ニ入り主ヲ信スル者ニ
 耶蘇基督カ賜ラ所ノ幸福ヲ受ク可キ者トナシ抑々元祖
 ノ犯罪ハ吾人ヲソ罪惡ノ奴トナシ靈ハ暗ミ体ハ疾ヲ生シ終
 ニ死ス可キ者トナリシカ神ノ子我等ノ主耶蘇基督カ甘シ
 テ苦ヲ受ケ自カラ十字架ニ釘ウタレ以テ元祖亞當ノ犯セ
 シ罪惡ヲ贖フテ吾等ヲソ限ナキ幸福ヲ受ク可キ永遠ノ國
 ノ嗣子トナセリ
 神此ノ機密ニ因リテ聖神ノ恩佑ヲ得ヘキヲ約セリ
 昔時ハ洗禮ノ機密ヲハ多ク成年ノ者ノミニ施シタリシカ
 今我カ教會ニテハ嬰兒ニモ之ヲ領セシム唯代父母ナル者、

嬰兒カ魔及罪惡ヨリ離レテ主神ニ奉事スルヲ約スル也」
 吾人ハ必ス恒ニ聖洗ヲ以テ神ニ奉事スルヲ約シ而シテ限リ
 ナキ幸福ヲ受ク可キ者トナリシ事ヲ記憶シテ神ノ誠命ニ遵
 守スルハ我等ノ爲メ大且重キ義務ナリト知ル可シ我等ニ
 賜フ所ノ聖神ノ恩寵ハ常ニ我等ト共ニセシメテ祈リツ、
 聖洗ヲ時ニ約セシ務ヲ成就スルヲ勤ムルヲ甚タ肝要ナリ
 何トナレハ我等ハ聖神ノ佑助無ケレハ荏弱ノ者ナルユヘ
 我等ヲ愛シ我等ノ爲ニ血ヲ流セシ主ハ主ヲ信シテ熱信ニ
 之ヲ請フ者ニ之ヲ與フレハナリ
 耶蘇基督カ約但ニテ聖洗ヲ受ケシヲ記憶シテ聖水式ヲ行フ

時左ノ祝文ヲ誦セリ
 主ヤ爾ハ洗ヲ約但ニ受クル時聖三者ノ光榮顯ハレ父ノ
 聲爾ヲ証シテ至愛ノ子ト名ツケ聖神鶴ノ象ニ顯ハレテ
 其証ヲ定メリ來リテ世界ヲ照ラス基督神ヤ我等爾ヲ讃揚
 ス聖神及火ノ洗ヲ施スノ主今自ラ約但ニ來リテ約翰ニ洗
 テ求ム神ト人トノ二性ヲ受ルノ主我カ同性ノ者トナリ人
 ヨリ洗ヲ受ク仁慈ナル神ヤ世界ノ罪ヲ清メ我等ニ大ナル
 矜ヲ賜ヘリト

○主ノ前驅ニシテ著名ナル預言者授洗約翰ノ瞻禮十九日
 聖教會ニテハ神顯祭ノ後救世主ニ洗禮ヲ行ナヘタル者ヲ

崇メ祭レリ是レ主耶穌基督ノ預言者中、至大ナル者ト稱セ
 ラル前驅約翰ヲ崇ムルカ爲メノ膽禮ナリ
 前驅約翰ハ救世主ノ事ヲ報シタル預言者中ノ殿者ニメ基
 督降誕ノ前六月ニ生レタリ其生ル、ト司祭撒加利亞ニ
 預告スル神ノ使者、約翰ノ大ナル境遇ヲ先言シ曰ク「彼レ主
 ノ前ニ在リテ大タラントス其母ノ胎中ヨリ聖神之ニ充テ
 多ク以色列ノ子ヲ轉メ其主ナル神ニ歸セシメ彼レ將ニ
 主ノ前驅トナリ以利亞ノ情性ト才能トヲ以テ主ノ爲ニ新ナ
 ル民ヲ備ヘントス」ト神ノ使者ノ預言セシ如ク高齡ナル司祭
 撒加利亞ニ家子生レタル時撒加利亞聖神ニ充テ方サニ救世

主ノ降臨アラントナ悟リ主ノ事ト新ニ生レタル嬰兒ノ事
 ヲ預言シ曰ク「嬰兒ヨ汝ハ至上者ノ預言者ト稱セラレン其
 ハ主ノ爲ニ前驅トナリ其道ヲ備ヘ神ノ深キ矜恤ニ因リテ
 其罪ヲ救サレテ救贖ノ事ヲ民ニ示シ知ラシメ幽暗ト死蔭
 トニ居ル者ヲ照光シ我等ノ足ヲ導キテ平康ナル道ヲ履マ
 シメシ」ト（路加一章七）伯利恒及其近傍ニテ嬰兒等ノ殺サル
 時神ノ深キ憐憫ニ因リテ救ハレタル聖前驅約翰ハ
 原野ノ間ニ成長シ嚴肅ナル行ト齋ト祈禱トヲ以テ己ノ身
 ヲ將來ノ至大ナル務メノ爲ニ備ヘリ其身ニ駱駝ノ毛衣ヲ
 着ケ腰ニ皮帶ヲ束ネ蝗虫ト野蜜トヲ食シ神、約翰ヲ召シテ

猶太ノ民ニ道ヲ傳ヘシムルニ至ル迄、野ニ住メリ聖福音者
〔路加三〕曰ク撒加利亞ノ子約翰カ野ニ居ル時神ノ命之ニ降
レリト

約翰年三十ニ滿ケレハ道ヲ傳ヘテ救世主ヲ受クルニ堪ル
ノ民ヲ備ヘントシ約但ノ近傍ニ出テタリ約翰如何ニ主
ノ爲ニ新ナル民ヲ備ヘシヤ約翰ハ仁愛、公義、謙遜ト改悔ト
ニ民ヲ招キタリ神ハ唯謙遜ノ人ニ顯ハル故ナリ約翰ハ殊
ニ已レ獨リ神ノ選民ニシテ律法ヲ遵守スル者トナシテ不遜
ノ罪ニ傾キシ猶太人ヲ傲慢ヨリ警戒シ曰ク「當サニ菓ヲ結
テ改悔ヲ顯ハス可シ自ラ以テ亞伯拉罕ハ吾カ祖ナリト爲

ス」勿レ我レ爾ニ語ラシ神ハ能ク此ノ石ヲシテ亞伯拉罕ノ子
孫ト爲ラシムト〔馬太三章〕多ノ民約翰カ道ヲ傳フルヲ聞キ就
テ改悔ノ洗禮ヲ受ケントシ且約翰ヲハ約セラル、所ノ彌
西亞ナラント思ヒタリ然ルニ約翰、預言者以賽亞カ約翰ヲ
指シテ預言セシ語ヲ引キテ曰ク「我ハ野ニ呼フノ聲タリ即
チ主ノ道ヲ備ヘ其ノ徑ヲ直フスル者也」ト遂ニ來リテ己レ
ニ就カントスル救主ヲ見、民ニ指示シ曰ク「視ニ世ノ罪ヲ負
フ所ノ神ノ羔ナリト」〔約翰一章〕
約翰ハ耶穌基督ノ顯ハレタル後モ悔改ノ道ヲ傳ヘ恐ル、
色ナク人々ノ罪過ヲ詰責シケレハ人々約翰ヲ責ビテ預言

者トナセリ伯利恒ノ嬰兒等ヲ殺セシ者ノ子希律王、兄弟ノ妻希羅底ヲ娶ラント欲シシ時之ヲ諫メテ曰ク「此破倫ノ行ヲ爲スハ宜シカラズ」ト斯ク正義ナル諫言ヲ爲シ王ノ怒ニ觸レ遂ニ死刑ニ處セラレタリ其事蹟ノ詳カナルハ約翰ノ致命ノ日（八月十日）ニ述フ可シ

正教會ニテ主自ラ婦ノ生ム所ノ者ハ授洗約翰ヨリ大ナル者ナシト云フ所ノ前驅約翰ヲ深ク尊敬ノ之ヲ讚揚謳歌セリ

聖教會ニテ授洗約翰ノ手ヲ安提阿ヨリ君士坦丁堡ニ移ス

ノ日一月十九日ヲ記念セリ聖約翰ハセウステヤ邑ニ斬首

セラレシカ聖使徒路加カ此シ邑ニ在ル時約翰ノ不朽体ヲ安提阿ニ移サント欲スルモ得サレハ唯、其右手ノミヲ携ヘ歸レリ

九百五十六年回々教徒カ安提阿ヲ畧取セシ時補祭約百之ヲ哈留基頓ニ移シ神顯祭ノ夕、又之ヲ君士坦丁堡ニ移シタリ

支丹ハセトハ聖前驅約翰ノ手ヲマルテイノ將軍ニ與ヘケ

レハ千七百九十九年將軍之ヲ露西亞帝保羅ニカツチナ

邑ニ遺クリ現今ハ仙彼得堡、皇室ノ修院、教主不手造像院ニ存セリ而ソカツチナ邑ニ移セシヲ十月廿四日ニ祭レ

○二十日

一月廿日ニ聖ゲオルギイホゼワイト第五世代ノ人、成徳者ド
 ムニク聖致命者イウリアン聖ワシリサ羅馬皇帝戴克里先
 ノ時難ヲ受ケシ聖致命者ケルシイ、アントコイ、アナスタシ
 イ、マリチニルラ、カルテリイ、フェチヒル、エルラデー及十一世
 代ノ終リノ人ベチエルノ奇蹟行爲者グリゴリイノ記念ヲ行
 ヘリグリゴリイハベチエルノ修道院ニ在リ虔敬、謙遜ニ奇
 蹟ヲ行フ恩寵ヲ受クルヲ以テ著名ナリ

○墨斯科ノ府主教聖腓力ノ傳世日

聖腓力ハ舊名ヲフェオドルト云フ舊時ヨリ著名ナルコルエナエ
 ウエイ侯ノ族ヨリ出テタリ千五百十年墨斯科府ニ生レ良師
 ニ從ヒ螢燈雪窓ノ業ヲ積ミ學成リ出テ皇家ニ仕ヘ忠直ニ
 ノ幼ナル大侯約翰ニ寵セラレタリ其ノ父固ヨリ富貴ナレ
 ハ世ニ在リテ高位ニ昇リ顯官ヲ取ルハ目前ニ在リト雖ヒ
 フェオドルハ地ノ榮顯ヲ避ケ幼年ノ時ヨリ獨、神ニ奉事ノ世
 テ畢ヘント欲シタリ一日聖堂ニ至リシ時一人ニシテ主ニ
 事ル者未タ之レ有ラス或ハ此ヲ惡ミ彼ヲ愛シ或ハ此ヲ重
 シ彼ヲ輕ス爾上帝ニ事テ又貨財ニ事ル能ハスト云ヘル福
 音(馬太十六)ヲ聞キテ大ニ感動シ志ヲ決シテ今世ト貨財ト

ニ事ヘス万事ヲ捨テソロワエテノ修道院ニ入ラントセリ
オドル既ニ三十歳ニ至リケレハ志ヲ決メ修道院ニ至ラン
ト欲シ自ラ一ノ携帶モナク旅ノ山ニ臥シ野ニ宿シ或ハ農
家ノ雇夫トナリ若干ノ資ヲ得テ以テ旅費ニ充テ遂ニソ
ロワエテノ修道院ニ至レリ

老翁ナル掌院亞歴修ハフェオドルヲ容レ其從順ナルヲ愛シ
ケレハフェオドルハ喜テ山ニ樵シ川ニ汲ミ食物ヲ調理シ野
ニ耕シ水車ニ搗キ諸事碎身ノ命セラル、職ヲ行ヒ從順ニ
シ人ノ誹謗打擲ヲモ堪ヘ忍ヒタリ富貴ニ生長スル者ノ子
ニハ斯ノ如キ渡世ハ安キコトハ非ラサルモ勤勞ト從順ト

ヲ以テ神意ニ任セントスル望ハ万事ヲ成シ重キ勞動ニモ
失望セザリキ斯ク勞苦ノ凡ソ半年ヲ過キケレハ掌院ハフェ
オドルヲ剃髮シ名ヲ腓力ト改メタリ腓力ハ修士ト爲リテ
續々諸善行ノ龜鑑ヲ爲シ勤勞ニ祈禱ニ怠ルコトナク虔敬ノ
渡生ヲ以テ諸兄弟ニ愛敬セラレタリ性、最モ靜寂ナル處ヲ
好ミ掌院ノ允可ヲ得テ或ハ無人ノ孤島ニ至リ專ラ祈禱ト
神ヲ思念スルトヲ爲セリ掌院亞歴修腓力ノ德行ヲ見、修道
院ヲ總理セシメント欲シタリ其ハ亞歴修老衰シケレハ總
理ノ職ヲ解ント欲セハナリ然ルニ腓力ハ兄弟ヲ治理スル
ニ當ラサル者トシ之ヲ受ケサル故ニ亞歴修、諸修士ヲ會シ

自ラ掌院ヲ撰ハシムルニ皆異口同音ニ腓力ヲ撰ヒケレハ
 ノウゴロトニ至リ主教ノ手撫ノ禮ヲ受ケザルヲ得ザルニ
 至レリ既ニノウゴロトニ至レバ腓力ノ風聞ノウゴロト縣
 ニ大産ヲ有テル親戚ニ達シ彼等ハ既ニ死セリト爲シテ悲
 歎セシ者ノ恙ナク世ニ存命スルヲ聞キ大ニ喜ヒ腓力カ受
 ク可キ父ノ産ヲ以テ腓力ニ與フルヲ急キタリ事終テソロ
 ウニテ修道院ニ歸レハ掌院ハ禮ヲ尽シ大ニ敬ヒ尊ビタリ然
 ルニ腓力ハ亞歷修ニ再ヒ修道院ヲ治ムルヲ請ヒ己レ其愛
 スル湖上ノ野ニ遷去セリ腓力ヲ記憶スルカ爲メ今ニ至ル
 迄テ之ヲ腓力ノ野ト稱ス而シテ亞歷修世ヲ逝ルノ後腓力總

理ノ職ヲ嗣ギタリシニ亞歷修ハ其ノ遺業ヲ承テ
 聖腓力ハ事ニ敏達ニシテ新職ヲ執リ意ヲ萬事ニ注キ修道院
 ノ内規ヲ改正シ交際ヲ修メ仁愛謹讓メ能ク兄弟ヲ治メテ
 勤勉、從順、敬虔ナラシメ而シテ言行ヲ以テ之ニ軌範ヲ與ヘタ
 リ然ルニ修道院ハ甚タ究乏ニシテ大ニ節儉ヲ爲スト雖モ
 衆多ノ兄弟ヲ養フ能ハサレハ聖腓力、日夜勉勵メ種々ノ善
 キ方法ヲ立テ又王ニ助テ哀請セリ王之ヲ許シ若干ノ地及
 資ト優旨ノ勅ヲ與ヘケレハ腓力ハ務メテ修道院ニ會計ノ
 緒ヲ立テ曠野ヲ開拓シ諸ノ工業ヲ興シ水車ヲ作り廣大ノ池
 ナ堀リ或ハ種々ノ器械ヲ發明製造シ以テ工人ノ勞ヲ助ケ

諸事自ラ先メ之ニ從事シ百挫不屈而シ修道院ニ属スル農夫ノ爲ニモ公益ヲ謀ルコト亦少ナカラス其地及資ヲ治ムル爲ニハ嚴法ヲ立テ各自ノ身生ニ注意シケレハ衆皆ナ謹ンテ其命ヲ遵奉セリ

腓力、教座アル聖堂ト數棟ノ石室トヲ建築シ以テ燒失シ易キ木造ノ屋ニ代ントシ又助テ王ニ哀請セリ勇猛ナル約翰王ハソロウエチノ修道院ヲ尊ヒ幼時ヨリ知ル所ノ腓力ヲ愛シ腓力ノ掌院タル際、二度墨斯科ニ召シ與ニ國事ヲ議セリ其ハ一ハ刑法議定ノ爲メニハカサンノ主教部ヲ開設スルカ爲メナリ掌院腓力、墨斯科ニ至ル毎ニ欣抃歡呼シテ歸リ

將來露國ノ盛隆ナランコトヲ期セリ其ハ幼帝ハ聰明勇猛ニ能ク國ヲ治メ内乱外寇ノ憂ナク蒼生鼓腹シテ帝ノ徳ヲ讚セハ也然ルニ幾クモナクノ諸事變換セリ

腓力ハ約翰ガ優旨ノ助ニ依リテ修道院ノ歲入ヲ増加シ又聖神母、冥去ノ石殿ヲ造リ後チソロウエチ島嶼ノ一ニ病院及ヒ石造ノ隱房、客舎ヲ造リタリ一言之ヲ謂ハ、ソロウエチ修道院チ一新セシ也腓力又救主顯榮ノ第二ノ聖殿ヲ造營シ工將ニ終リ諸事全備ソ將ニ之ヲ聖ニセントスル時俄ニ王命ニヨリ宗教ノ會議ノ爲ニ墨斯科ニ召サレシカハ大ニ十八年間居ル所ノ修道院ヲ去ルヲ悲ニ墨斯科ニ至レハ必患難

ノアランナ逆睹セリ其ハ腓力嘗テ墨斯科ニ在リシ時ニ
 リ政事一變ノ怕ル可キ王ノ風聞今遠鄙ナルソロワエチノ修道
 院迄聞エケレハ也而ノ衆兄弟ハ深愛ノ掌院ニ別ル、チ悲
 ミ歎キタリ是ヨリ少シク先キ約翰ノ師父ナリシシリワエス
 トルカソロワエチノ修道院ニ謫流セラル時腓力正義ヲ以テ
 敢テ猛烈ナル王ヲ諫メケレハ今如何ノ艱難ヲ受ルヤ見易
 キナリ

初メ父王ノ薨スル時約翰生レテ甫メ三歳ニシテ大位ニ即キ
 其母后政ヲ攝シタリ然ルニ幾クモナクシテ母后又逝去シ
 ケレハ王族名門政ヲ攝セシカ彼等善ク其職ヲ尽サス約翰

ヲ育スルニ善行ノ規範ヲ以テセス不長ノ行爲ニ傾クモ敢
 テ之ヲ正サスノ其欲スル所ヲ行ハ使メ却テ事ノ練達ヲ得
 ルト爲セリ年十七ニ至リ自ラ政ヲ爲サントノ後見者ヲ退
 ケ或ハ之ヲ刑メ私慾ヲ逞フセシカハ露國ハ甚タ艱難ノ時
 トナレリ斯ク約翰ハ臣民ノ苦難ヲ受ルヲ見テ慰ミトナシ
 國家ノ安寧ヲ謀ラス唯己ノ慾ヲ飽カシムルヲ計リタリ
 人民ハ至嚴ナル軼ヲ負ヒ究乏ニ至リシ上ニ大火アリテ墨
 斯科全城ヲ燒失シ死スル者幾ント數万人ニシテ幸ニ免ルヲ
 得ル者ハ悉ク財産ヲ失ヒ擾乱一揆四方ニ起リケレハ約翰
 大ニ怒リ乱人ノ首領ヲ索メテ之ヲ刑セシト欲セシカシリ

ワエストルト云ヘル一ノ司祭アリ宮殿ニ至リ黒烟天ヲ蔽ヒ
 シ都城ヲ指シ恟ル、色ナク王ニ謂テ曰斯ノ如キノ慘狀ヲ
 來セシハ王自ラ是ヲ爲スナリ殘忍暴政ノ爲ニ此ノ不幸ヲ
 以テ神カ爾ヲ譴ムルナリト約翰不撓ノ直言ヲ聞キ大ニ感
 動シ己ノ罪惡ヲ認メ痛悔ノ涙ヲ流シ神ニ祈リテ罪ノ赦ト
 其助ヲ請ヒ必ス行ヲ改メソテ決シ數月ヲ經テ聖體機密
 ナ領ケ市民ヲ廣街ニ集メ王自ラ身ヲ屈シ四方ヲ拜シ己往
 ノ罪過ヲ赦サンコトヲ請ヒ而シ將來必ス人民ノ安寧幸福ヲ
 計リ仁愛公義ヲ以テ政ヲ爲サンコトヲ約シタリ約翰此ノ言
 ナ蹈ミ諸事勉メテ國家ノ幸福ヲ計リ聰明ニシ廉直ナル士ヲ

舉ケ律法ヲ定メ正大ノ政ヲ布キケレハ國人皆從順ソ王ノ
 德ヲ讚シ諸國風ヲ望テ尊敬シ國威四方ニ輝キ遂ニタ、ル
 人侯國カザンヲ征服シ又將ヲ遣シテダウリダヲ遠征セシ
 ムルニ至リタリ主神ハ此ノ有爲ノ王ノ興業ヲ速成セシメ
 シカハ十三年ノ間露國ハ清平無事ノ厚澤ニ浴シタルモ
 忽ニノ國政變易シ約翰ハ師父シリワエストル及ヒ親友アタ
 シエワノ公議ヲ厭ヒ且ツ其後幾クモナクシテ王ノ爲ニ大ナル
 感化ヲ與ヘシ善良ナル后阿那斯達西亞薨シケレハ約翰ハ
 憂悶ニ堪ヘス更ニ又怕ル可キ慾ヲ逞シシリワエストル及ヒ
 アタシエワ等カ議ヲ献シ自由ヲ制シタリトテ之ヲ逐ヒ佞人

諛臣ヲ近ツケ日一日ニ暴政甚シク實ニ猛烈ノ名ニ適フニ
 至レリ故ニ此等ノ一ヲ以テ其名史上ニ著ルシ
 約翰暴政ヲ逞スルニ從テ危疑ノ心日ニ深ク終ニ腹心ナル
 親兵ヲ置キ之ヲ「オブリチニツ」ト稱シ生殺與奪ノ權ヲ與ヘ
 罪アルモ刑ヲ加ヘス而シテ衆民ハ財產生命ノ保護ヲ受クル
 ニ由ナク小過アルモ死刑ニ定メラレ露國人民ノ不幸ナル
 ハ實ニ悲シム可キニ至リタリ時ニ腓力カ主教ニ舉ケラレ
 シトシ墨斯科府ニ召サル、ニ當テ修士等ハ悲哀ニ堪ヘサ
 リキ
 ソロワチノ修道院ヲ出ル時修士等路ヲ遮リテ號泣スル

考妣ヲ喪スルカ如シ其ハ前途ノ難ヲ知レハナリノウゴ
 ロトチ過ク時民過アリ王ノ怒ニ觸レ罰ヲ受ケンヲ懼レ聖
 腓力ノ此城ヲ過クルヲ聞キ男女幼長ノ別ナク道路ニ相迎ヘ
 王ノ前ニ己レヲ辨護セシヲ哀請セリ墨斯科ニ至レハ人
 皆親兵ノ暴威ニ戰慄セシカ聖腓力堅ク心ヲ決シ不法ヲ論
 駁シ民ヲ塗炭ニ救ハントシ百方周旋メ主教等ニ説キ與コ
 事ヲ計ラントセシニ皆王威ヲ懼レテ之ニ與セザレハ腓力
 衆ニ謂テ曰ク「諸君ノ默視スルハ王ノ靈ヲ罪惡ニ陷イルナ
 リ諸君モ亦之カ爲メ己ノ靈ヲ亡サン共ハ諸君身ノ安樂ト
 世ノ榮華トヲ貴フ己ノ職ニ優レハナリ」ト

約翰、腓力ヲ優遇シ聖書ノ言ヲ以テ府主教ノ職ヲ受ケン
 ナ勸ム蓋シ約翰常ニ聖書ノ言ヲ用キ虔敬ナル風ヲ顯サ
 ントトシ時ニ或ハ常居スル所ノ歴山ノ莊園ニ於テ親兵ト與
 ニ修士ノ外儀ヲ守リ日夜、禁食、祈禱ノ聖書ヲ讀ミ以テ其猛
 烈ナル行狀ノ爲メニ受ル所ノ神ノ怒リヲ免レントセリ然
 ルニ神ハ人心ヲ洞知シ唯熱愛ニメ已ノ罪過ヲ悔改シ誠ニ
 神ニ悅ハレントスル者ノ祈禱ヲ納ル、ノミ約翰ハ其心ニ
 責メラル、モ痛悔セス神前ニ憚ラスメ神ノ爲ニ己ノ罪愆
 ナ制セザレハ約翰ノ祈禱ハ果テ結バズ己ノ懺々タル靈
 ニ平安ト慰ミトナ得ル能ハザリキ

聖腓力王ヲ見テ大ニ驚キタリ其ハ王ノ人ト爲リ身體雄偉
 眉目清秀ニメ才思アルヲ知リシカ今顔色ノ厭フ可ク心ノ
 忌嫌ハ其面ニ顯ハレ一目メ其暴君タルヲ知ル可キ故ニ驚
 キタルナリ腓力親兵カ露國ニ流スノ慘毒ヲ述ヘ之ヲ廢セ
 ントテ哀請セシカ王聽カサレハ腓力遂ニ若シ之ヲ廢セ
 スンハ府主教ノ職ヲ受ルヲ願ハスト斷言シ且ツ曰ク「噫王
 ヲ我レ爾ノ虔敬ナル真理ノ警衛者、聰明ニシテ練達ナル君タ
 ルヲ知ル王亦知ルヘシ今何人モ爾ニ背カサルヲ王願クハ
 惡業ヲ止メ爾ノ以前ノ虔敬ヲ復セヨ主曰フ「アリ國若シ
 自ラ分爭セハ其國立タスト夫レ我主基督ハ我等ニ相愛セ

シム蓋シ神ヲ愛シ人ヲ愛スルハ是レ法ノ大綱ナリト
 王耳ヲ傾ケ腓力ノ言ヲ聞キ答フルニ親兵ヲ置クノ緊切ナ
 ル所以ヲ以テス其辨折セラル、ニ及ヒ怒ニ堪ヘス叱シテ
 黙セシメ旨ヲ牧師ノ尊長ナル者ニ傳テ相共ニ腓力ヲ勸メ
 約スル所無クソ直ニ府主教ノ職ニ就カシメリ腓力ハ國家
 ノ爲ニ公益ヲ謀ラント欲セヒ王ハ是ヨリ王宮ト親兵トノ
 事ニ關セザル約ヲ爲サシメタリ
 千五百六十六年七月廿五日ニ聖腓力府主教ノ位ニ昇ルニ
 臨ミ聖殿ニ於テ王ニ向ヒ演說セリ其大意ニ曰ク「國ヲ治ム
 ル者ハ必ス信義ヲ守リテ賞罰ヲ明ニシ賢者ヲ親ニ詐僞ノ

人ヲ遠ケ臣民ヲ憐恤シ而シテ威力ヲハ外寇ニ用ウ可シト約翰
 謹テ府主教ノ言ヲ聞キ心甚ク和ラキ大ニ尊敬シテ師ニ聽
 キケレハ臣民之ヲ見テ王ノ万歳ヲ祝シ且臣民ノ望モ實ニ
 達ス可ク見ニタリ蓋シ先ニハ少シク王ノ意ニ逆フ者アレ
 ハ忽チ誅セラル、モ今ハ然ラスソ約翰能ク府主教ノ忠直ノ
 言ヲ納レ事無キヲ數月ニシテ審院ハ戸ヲ閉ツルニ至リ親兵
 モ亦王ノ府主教ニ從フヲ見テ大ニ腓力ヲ恐レタレハ也而シテ
 人民大ニ仁慈ナル府主教ノ高德ヲ讚揚シ此ノ無事平安ノ久
 シカラソトテ主神ニ祈リタリ腓力能ク力ヲ會事ニ尽シ善
 ク其群ヲ牧シソロワエテノ成德者ツシマ及ヒサウワテイ

ノ名ニ依リテ小ナル堂ヲ建テタリ(此ノ聖堂今猶存セリ然メ
 聖使徒腓力ノ名ニ依リテ聖セラレタリ)
 惜イ哉露國ノ人民ハ久シク無事太平ノ恩澤ヲ受ケ得ル能
 ハザリシ其ハ王恒ニ腓力ノ諫言ヲ納レ親兵等意ヲ違フ
 スル能ハザレハ力ヲ竭シテ腓力ヲ王ノ前ニ誣ントスル故
 也約翰リワカニヤヲ征シテ利アラザレハ其殺戮殘忍前日ニ
 比スレハ益々甚シク腓力ノ同郷ノ一人カポルシヤ候ニ與ミ
 シタレハ是等ノ事ハ皆ナ腓力ニ向フノ刃トナレリ親兵等
 府主教ハ國敵ニ與ミシ又紳士數人ヲ誣ヒテ王ヲ誹謗セリ
 ト云ケレハ此ノ讒言易ク腓力ノ心ヲ奪ヒ復タ怖ル可キ拷

問刑罰トナリ流血淋漓、河ヲ爲シ臣民、怨苦戰慄メ訴フル所
 ナカリケレハ是ニ於テ腓力志ヲ決シ王ヲ諫シントシ、恟ル
 可キ歷山莊園ニ赴キタリ

腓力王ニ謁シテ曰ク「王ヨ爾ニ王位ヲ與ヘシ主ヲ敬畏シ爾
 ニ玉ヘシ神ノ聖戒ヲ守リ平安公義ヲ以テ國ヲ治サメヨ地ノ
 富貴ハ限リアリ唯、獨リ天ノ寶藏ナル公義ヲ守レ爾今高位ニ座
 ス爾衆人ニ勝リテ是ノ高位ヲ爾ニ玉ヘシ主ヲ尊フ可シ爾
 其位ト權トヲ有ツハ猶、神ノ像ノ如シ夫公明正大ニ私心
 ナキ施政者ハ慾ニ陷ラヌメ人ヲ愛シ己ニ克ツハ爾ヲ知ル
 所ナリ古來ヨリ虔敬ナル王ニ自ラ其國ヲ破リシ者アラ

スト王之ヲ聞キ大ニ怒リ大聲ニ叱シテ曰ク「爾緇衣ノ徒、焉
 ンソ我國事ヲ知ランヤ」ト腓力答テ曰ク「我レ聖神ノ恩佑、聖
 會ノ撰任、殿下ノ認可ヲ以テ基督教會ノ牧者トナレリ我必
 ス爾ト共ニ正教ヲ奉スル國家ノ安和平康ヲ謀ラサルヲ得
 ズ」ト約翰曰ク「默セヨ唯我カ意ノ爲サントスル所ノ事ニ福
 ヲ降セ」ト腓力曰ク「我若シ默セハ罪惡ヲ爾ノ靈魂ニ加ヘ衆
 人ニ大害ヲ來タサン視ヨ船アリ其水子ノ一人ヲ失フモ船
 未タ危キニ至ラズ若シ其萬人ヲ失フニ至ラハ船之カ爲ニ
 覆ルニ至ラン我爾ニ向ヒテ直言セザルヲ得ズ我之カ爲ニ
 生命ヲ失フモ敢テ辞セザル所ナリ」ト約翰、府主教ノ哲言ヲ

聞キ心少シク和ラキテ曰ク「聖主領ハ我ノ親友ナリ我ノ親
 臣ナリ然ルニ我ニ反ソ我ヲ亡ボサントスルカ」答テ曰ク「豈敢
 テ爾ニ反カンヤ今詐偽ヲ以テ爾ヲ欺ク人アリ宜ク是ヲ遠
 サケ諫ニ從ヒ爾ノ國ヲ分爭セシムルヲ勿レ爾ハ主神ノ万
 民ヲ審判スルニ公義ヲ以テスルカ爲ニ立テラレタレバ已
 レ自ラ窘逐者ノ如クナルヲ勿レ地ノ名譽威徳ハ皆限リア
 リ唯死セサル者ハ主神ニ在ルノ生命ナリ讒言ヲ遠ケ爾ノ
 民ヲソ一致セシメヨ蓋シ神ノ恩寵ハ合同一致メ爭競ナキ
 所ニ降レハナリ」ト
 王目ヲ瞋ラシ叱シテ曰ク「腓力爾ヲ若シ其職ヲ失ハサラン

不ヲ欲セハ我カ國事ニ關スルヲ勿レト
 答テ曰ク「我此ノ職ヲ求ムルニ非ス善ヲ行ハントスル時ニ
 當テ何ゾ屈ス可ケンヤ」ト
 此ノ時王默メ中ニ入り忠直ナル諫言ハ王ノ改悔ヲ爲スノ
 時過キ却テ王ヲ震怒セシメ其心彌殘酷ニ至リ是ヨリ
 王ハ諫言ヲ聞カザルカ爲ニ府主教ニ逢ハザルヲ務メタ
 リ時ニ殺戮諸所ニ行ハレ其慘狀言フ可カラズ府主教ハ愛
 ナ尽シテ艱難スル者ヲ慰藉シ其信向ヲ堅メ地ニ在リテ悲
 哀ヲ忍ヘル者ニ在天ノ福樂ヲ約スルノ主ニ已ノ望ヲ起ス
 可キヲ論シ又身心ヲ竭シテ約翰ヲ罪惡ヨリ痛悔セシメン

トセリ

十字架拜ノ主日ニ聖腓力、聖体ノ禮ヲウスヘンノ首堂ニ行
 ヒ儀將ニ終ラントスル時偶々約翰親兵ヲ率ヒ來リ皆黒色
 ノ法衣ヲ着ケ頭ニ尖頭ノ法冠ヲ戴キ手ニ劔ヲ握リ王獨リ
 進テ府主教ノ前ニ至リ降福ヲ待ナシカ府主教ハ知ラサル
 マチシテ聖像ヲ注視セリ一紳士曰ク「聖首領ヨ國王ハ爾ノ
 降福ヲ請ハントス」ト

腓力、約翰ヲ見テ曰ク「此ノ奇異ナル衣ヲ服スル者ハ吾レ焉
 ソ正教ヲ奉スルノ王タルヲ知ランヤ且國法ニ於テモ未
 タ之ヲ知ラサルナリ噫王ニ我今、神ニ無血祭ヲ献スルモ聖

殿ノ後ニ率ナキ基督徒ノ血流レリ昔ヨリ未ダ斯ノ如キノ
 慘事ヲ聞カス異邦ノ最モ不正ナル國王ト雖ヒナホ法アリ
 義アリ人ヲ憐憫スルアレヒ唯吾カ露西亞ニ於テ是ナシ
 國人ノ財產生命ハ將ニ誰ニカ其保護ヲ求メントスルヤ到
 ル所王ノ名ヲ以テ暴ヲ行ハザルハナシ嗚呼爾ハ位高シト
 雖抑亦爾ト我トノ間ニ至上ノ審判者アリ爾ハ無辜ノ血ヲ
 流シ之ニ浴スル者也將ニ如何シテ其臺前ニ立タントスルヤ
 王ヨ我牧師ナレハ爾ニ告ク主神ヲ敬畏ス可シ人誰レカ兄
 弟ヲ愛セサル者ハ神ヲ愛セサルナリト約翰大ニ怒リ地ヲ
 打テテ曰ク緇衣ノ徒爾敢テ我が權威ヲ犯サントスルカ我

レ爾ノ力ヲ見ント震怒恐嚇メ殿ヲ出テタリ約翰此ノ時ヨ
 リン府主教ヲ害セントスルノ心アリシカ親兵其怒ヲ助ケ
 數人ノ主教モ是ニ與ミシタリ其ハ一ハ腓力ノ嚴責ヲ受ル
 カ爲メ一ハ以テ王及ヒ其寵者ノ愛ヲ得ンカ爲メナリ約翰
 府主教ヲ鞠スルカ爲メ妄證者ヲ求メント人ヲソロワエテ
 ノ修道院ニ遣ハシ腓力ヲ陷イル罪ヲ求ムレヒ甚タ難カ
 リキ蓋シ修道院ニテハ皆大ニ前ノ掌院ヲ敬愛シテ忘レサ
 ル故ニ唯タ仁善ナル品行ノ證ヲ得ルノミ然ルニ恐嚇シ且
 暗ハシムルニ利ヲ以テシテ遂ニ腓力ノ弟子ニ一ノ不當
 ナルハイシイヲ得ケレハ使者ハ意ヲ達スルヲ以テ大ニ喜

ヒ讒者ヲ携ヘテ墨斯科府ニ歸リタリ
 約翰事ノ成ルヲ見テ大ニ喜ヒ應ヲ開キ訴ヲ聞キタリ蓋シ
 約翰不法ノ事ヲ以テ衆ニ公義ヲ顯ハサントシ腓力ヲ召シ
 タル也腓力王ノ己ヲ殺サント欲スルヲ悟ルト雖ヒ敢テ死
 ナ恟レス應ニ出テ王ニ謂テ曰ク「王ヨ我レ爾ノ恐嚇ト死ト
 ナ懼ル、ト思フカ我レ何ソ之ヲ懼レンヤ我レ廉潔コソ老
 年ニ至レリ今喜テ我カ靈ヲ爾ト我トヲ鞠スル神ニ獻セシ
 眞理ヲ證明スル爲ニ死ヲ致スハ我レニ於テ其欣喜ハ府主
 教ノ位ニ坐シ世ニ在リテ衆民ノ塗炭ニ苦ムノ慘狀ヲ默視
 スルニ優レリ此レハ是レ牧杖、法衣、白帽ナリ爾我ヨリ奪

ハントスル所ノ物今之ヲ爾ニ奉還セント又參會セル主教
 等ニ向テ曰ク「諸君ハ至聖所ニ奉事スル人也誠ヲ注キテ基
 督ノ群羔ヲ牧シ神ニ答ヲ爲スヲ務メ在天我等ノ主ヲ敬畏
 スルコト地ノ王ニ勝ル可シ」ト言終リテ法衣白帽ヲ脱シ退テ
 曠野ニ閉隱センコトヲ求メシニ約翰之ヲ聽サス議會ノ判決
 スルニ至ル迄府主教ノ職ヲ行フヲ許シテ後命ヲ待タシメ
 タリ
 數月ノ後神使ミハイルノ祭日ニ於テ聖腓力ウスペンノ首
 堂ニ昇リ壯裝メ聖臺ノ前ニ立チ將サニ聖体機密ノ禮ヲ行
 ハントスル時王ノ寵臣ハスマノウウ判決書ヲ手ニシ甲兵數

人ヲ卒ヒ突ニ堂ニ入り命シテ之ヲ讀マシメ直ニ進テ府主
 教ヲ捕ヘ法衣ヲ剥キ破衣ヲ被セ聖堂ヨリ出サントセリ衆
 民皆聖腓力ハ不當ノ罪人ニシテ牧師ノ職ヲ奪ハルト聞キ大
 ニ驚愕シ爲ス所ヲ知ラス府主教泰然トシテ苦ヲ受ケ人民
 及神品等ヲ慰藉シ從容トシ殿ヲ出テケレハ親兵、腓力ヲ與
 ニ乗セホコヤウレンスキイノ修道院ニ押送セシカ民其後
 ニ從ヒ行々涕泣シケレハ腓力ハ衆ニ降福シテ祈禱セシメ
 忍耐剛毅ヲ守ルヲ勸メタリ
 明日又腓力ヲ王宮ニ出シ新ニ議會ヲ開キ王自ラ議長トナ
 リタリ此ノ時腓力始テ己ヲ訴フル者ハハイシイナルヲ知

ルモ少シクモ怨ミス自若トシテ貶職ノ命ヲ聞キ了リ復、王
 ナ諫ヲ切ニ其心ヲ寛大ニシ以テ臣民ヲ虐セサランヲ哀
 請シテ曰ク「王ヨ不義ヲ行フノ坐ヨリ退ケヨ古ヨリ賢君良
 主ハ死後猶人ニ追惜セラレ其名、世ニ傳レリ暴君ハ然ラズ
 一人ノ之ヲ記憶スルナク唯惡名ヲ後世ニ流スノミ王ヨ勉
 メテ善果ヲ結ビ財ヲ天ニ積ム可シ蓋シ各人其行爲ニヨリ
 テ報ヲ受ソト」

王、府主教ノ舉止端正、威儀堂々トシ衆皆驚嘆シ敢テ一人モ
 抗スル者ナキヲ見テ益、怒リ腓力ヲ殺サントセリ然ルニ顯
 ハニ死罪ヲ宣告セズシテ流罪ニ處シ親兵ニ命シテ腓力ヲ獄

ニ下サシメタリ蓋シ王ハ親兵カ己ノ深意ヲ察シテ行フヲ
 知レバナリ親兵果ソ王ノ意ヲ悟リ腓力ヲ餓死セシメントソ
 食セシメザルヲ數日ナリシカ腓力常ニ禁食ニ慣習セシカバ
 自若トシテ屈スル色ナシ當時ノ史家クルブシキイ侯書シ
 テ曰ク「聖腓力ヲ餓エタル熊ト共ニ囚セヒ熊、腓力ヲ害セス」
 ト王是ヲ聞キ憤怒ニ堪ヘスノ曰ク「巫術広法ハ我カ仇ナル
 反者腓力ヲ助ケリ」ト

數日ヲ經テ約翰命ノ腓力ヲニコリスキイ修道院ニ幽シ且
 ツ其親戚ヲ罰シ其愛姪ノ首ヲ斬リ賜フテ之ヲ見セシメテ
 曰ク「爾ノ魔術ハ之ヲ救ハサリシ」ト腓力流血淋漓タル首ヲ

視テ之ヲ祝シテ曰ク「福ナル哉姪ヨ主ハ爾ヲ撰テ爾ヲ受ケ
 リ其記念ハ世々ニ至ラント」ト王ハ斯ク暴行ヲ逞スルモ怒猶
 消エザルニ墨斯科人カニコリスキイ修道院ニ麀集シ朝ヨ
 ヲ暮ニ至ル迄腓力ノ德行、奇蹟、苦難ヲ語り之ヲ哀惜スト聞
 キ命シテ更ニ腓力ヲ墨斯科ヨリトワエリノオトロナ修道院
 ニ送ラシメタリ聖腓力具サコ苦難ヲ受ケ破衣ハ以テ寒冷
 ナ禦クニ足ラズ食ハ以テ飢餓ヲ充スニ足ラザルモ無慘ナ
 ル番卒ニ腓力ヲ虐遇セシカ聖腓力ハ少モ怨憤セスメ之ヲ
 忍ビ受ケ望テ神ニ属シ却テ敵ノ爲ニ祈リ狹隘ナル精舎ニ
 幽セズレ悲嘆ノ間ニ一年ノ星霜ヲ送リタリ

約翰王ノウゴロド人ヲ爵スルカ爲メ其地ニ至ラントノ途
 トウエリチ過キ腓力ノヲ憶ヒ無慘ナル親兵マリニタスクラ
 トウチ遣ハシテ其降福ヲ請ハシメタリ時ニ腓力ハ死ノ正
 ニ近キヲ知リ此ノ日聖体機密ヲ受ケ心靜ニ祈禱シテ死
 俟ナタリ
 マリニタスクラトウ精舎ニ至リ腓力ニ謂テ曰ク「聖首領ヨ王
 今ノウエゴロドニ往カントス爾之カ爲メニ福ヲ降セ腓力答テ
 曰ク「降福ハ善人善行ノミニ限ル也爾唯爾カ王ノ爾ヲ遣ハス
 ノ意ヲ行ヘ神ノ恩佑ヲ請フ爲メ我ヲ欺ムク勿レ」ト因テ目ヲ
 舉ケ呼テ曰ク「神全能者願クハ我カ靈ヲ受ケヨト遂ニ絞殺

セラレタリスクラトウ精舎ヲ出テ掌院及兄弟ニ腓力ヲ顧
 死スト爲シ速ニ之ヲ葬ルヲ命セリ是レ實ニ一千五百七
 十一年一月四日ナリ

二十年ヲ經テ勇猛ナル約翰ノ子ニ謙讓虔敬ナルフエオド
 ルノ時ソロウエチノ修士等至愛ナル總理ノ聖軀ヲ己ノ修道
 院ニ遷サンヲ請ヒ其墓ヲ掘リ聖軀ノ朽チザルヲ見テ大
 ニ欣ヒ最ト嚴ソカニソロウエチノ修道院ニ移シ腓力カ墨斯
 科ニ至ルノ前自ラ掘ル所ノ墓ニ葬リタリ後、墓ニ祈リテ病
 ノ痊ユルヲ得ル者多カリキ一千六百四十年亞歷修ミハイ
 ロウエチノ時又最ト嚴カニ其不朽ノ聖軀ヲ開キ一千六百

多瘡ト多病ヲ云
瘡人ハ病ヲ云

五十二年ノウゴロドノ府主教ニコン王命ニヨリ聖軀ヲ
墨斯科ニ遷シタリニコン自ラソリウエチノ修道院ニ至リ
テ總理及兄弟ニ王ノ意ヲ諭シテ曰ク「府主教聖腓力ノ不朽
体ヲ帝都ニ還シ首座ニ復シ其至ルヲ俟テ王ノ祖父ナル約
翰王ノ罪ヲ解ケヨト」而シテ聖者ノ多瘡ノ不朽体ヲ遷スノ祭
ヲ七月十六日ニ行ヘリ
斯クテ聖苦難者ノ尸ヲ墨斯科ノウスメンノ首堂ニ安置セ
リ露西亞教會ニテハ基督ノ爲ニ真正ナル牧師ノ任ヲ盡シ
謙遜、從順、修士度生ノ鑑ヲ顯ハシ暴君約翰ニ屈セズ遂ニ
群羊ノ爲ニ生命ヲ致セシ聖者ヲ追念欣慕シテ止マズト云

○聖グリゴリイノ傳二十一日

聖大和志理乙ノ親族ハ皆敬虔ニシテ純然タル基督徒ナリ和
志理乙兄弟三人姉妹五人アリ父母ハ子女ノ幼童ノ時ヨリ
常ニ神ノ聖書ヲ讀ミ其誠命ヲ守リ神ヲ萬物ノ上ニ愛スル
ヲテ教ヘタリ和志理乙ノ弟ニグリゴリイナル者アリ容貌
動作甚タ和志理乙ニ似タリ善良ナル教育ヲ受ケシカハ博
學能辨ニシテ殊ニ巧ニ聖道ヲ講セリ善良ナル小婦フエチズワ
ヲ娶リ俱ニ專ラ主ニ奉事セシカ後、司祭ノ職ニ上リテ神ノ
道ヲ傳ヘ善ク教會ヲ治メ神ノ法ヲ講明シ當時、信者ヲ惑ス
所ノ偽說ヲ斥ケタリ其妻フエチズワモ人ノ愛ヲ愛ヒ能ク人

ヲ愛スルヲ以テ女補祭ノ名ヲ得タリ
 基督教會ノ第一世代ニハ凡ソ信者タルモノハ多ク活潑ニ
 シテ神ヲ愛シ熱切ニ其聖ナル法戒ヲ守ルノ一全非ヲ爲シ
 ケレバ教會ノ各員ハ神品モ信者モ皆各々公利公益ヲ謀リ
 或ハ禮物ヲ獻シ或ハ金銀貨財ヲ貢シ或ハ身自ラ衆人ノ爲
 ニ勤勞セリ又多人全産ヲ傾ケテ聖堂ノ傍ニ病院、旅館、貧院、
 學校ヲ築造シ其管督ヲ主教若クハ司祭ニ委任シ旅人ヲ宿
 シ病者ヲ療シ鰥寡孤獨ヲ憐レミ且ツ敬虔ナル女子ヲ選ビ
 テ病者ヲ介抱セシメ之ヲ女補祭ト稱セリ女補祭等ニハ新ニ
 聖教ニ歸スル婦女ヲ教訓シ聖洗ノ機密ヲ受クルニ備ヘル權

ヲモ任シタリ敬虔ナルフエヲズワハ品行ノ潔清ナルト貞節ナ
 ルトニヨリテ衆人之ヲ愛シ聖大和志理乙ト親睦ニシ同居
 スル神學者グリゴリイモフエヲズワヲ敬フテ常ニ其ノ高德
 ヲ欣慕セリ
 善良ナルフエオズワカ世ヲ逝ルノ後グリゴリイ撰任セラレ
 テ伽怕多^{カハドキヤ}家^{ドキヤ}郡^{コツ}尼撒城ノ主教トナリタリ聰明ニシ能ク教會
 ヲ治理シ該撒利亞ノ主教タル兄和志理乙ヲ助ケ心志ヲ尽
 シメタリ然ルニ皇帝ワレントカ守護スルアリイ党ノ讒言
 ニテ職ヲ解カレテ數年ノ間放逐セラレシカ益々力ヲ尽シ

テ聖教ヲ處々ニ傳播シ基督徒ヲ信向ト敬虔トニ堅メ大ニ
 教會ニ利益ヲ與ヘシカワレント死スルニ及テ嗣帝、グリゴ
リイヲ召シ再ヒ主教ノ職ニ就カシメリ三百七十五年兄和
 志理乙及姉馬克利那世ヲ逝リケレハグリゴリイ悲哀ニ堪
 ヘス兄和志理乙ヲ讚スル詞ニ其情ヲ述ヘ又聖馬克利那ノ
 傳ヲ作レリ其後久シキ間少シクモ哀フル色ナク衆人ノ爲
 メニ幸福ヲ謀リ又亞拉比亞ノ教會ヲ監督セリ三百八十一
 年尼基亞ノ公會ニテ定メタル信經ニ増加スルノ君士坦丁
 堡ノ公會ニ與カリ後、年老テ世ヲ逝レリ時ニ三百九十四年
 ナリ希臘人ハ彼ヲ欣慕シテ教父ノ教父ト稱セリグリゴリ

イ數卷ノ書ヲ著シ聖教ヲ固メ又アリイ及マケドニイノ異
 端ヲ闡除シ其教訓ノ書廣ク世ニ行ハレ露西亞語ニモ譯セ
 ルモノアリ

○聖大フエオドシイノ傳二十三目

我等ノ聖ナル師父、聚居修道院ノ祖、聖大フエオドシイハ第五
 世ノ半、伽怕多家郡ニ生レタル人ナリ其母敬虔ナレハ善良ノ
 師ヲ撰ビ教育ヲ受ケシメタリフエオドシイ諸學ヲ學フト雖
 凡殊ニ好テ聖書ヲ學ビシカ音聲清雅ナル故ニ讀經者トナ
 リタリ神出ナル聖書ハ極メテ彼ノ心ニ感シ福音ノ語ハ彼
 ニ非常ノ感覺ヲ起セシカハ浮世ノ虛幻ニ迷フコナク永遠

ノ生命ヲ得ン^トヲ欲シ主ニ教導ヲ祈リ平安ヲ主ニ任シテ
 耶路撒冷城ニ往カントシ途ニ安提阿城ニ駐マリ登塔修士、
 聖西面ヲ訪ヒタリ聖ナル西面ハ預メ彼レノ必來ルヲ察知
 シ其近ツクヲ見謂テ曰ク「神ノ人フエオトシイヨ爾此ニ來ル
 甚善シトフエオドシイ神ニ愛セラル、者ノ前ニ俯伏シケレ
 ハ西面之ヲ進マシメ汝ハ衆人ノ靈魂ヲ牧スル者ト爲ラン
 ト預言ノ祝福シタリ聖者ノ祝福ニテ堅メラレタルフエオド
 シイハ喜ヒ勇ンテ旅途ニ上リ聖蹟ヲ巡拜シ志ヲ決シテ生
 命ヲ主ニ捧ケントセリ
 耶路撒冷城ノ近傍ニ住セル一修士ロギント稱シ聰明ニシ

テ最ト敬虔ナル翁アリフエオトシイ之ニ從テ教訓ヲ受ケ其
 行狀ヲ以テ龜鑑ト爲シテ己ヲ益シ修士渡世ノ勤勞ヲ學ビ
 道ヲ修メシガ後、翁ノ命ニ從ヒ聖堂ノ傍ニ廬ヲ結ビ日々祈
 禱ヲ爲セリ既ニシテ其名聲高ク四方ニ聞エケレハ衆人其
 ノ德ヲ慕ヒ其教訓ヲ聞カントシ集ヒ來ル者多カリキ
 聖フエオトシイハ人々ノ己ヲ尊敬スルヲ見テ心之ヲ厭ヒケ
 レハ去リテ一ノ洞穴ヲ求メテ之ニ住ミタリ(傳ニ曰ク博士
 カ神聖ナル嬰兒ヲ拜セントシ耶路撒冷城ニ至ル時假宿セ
 シ處ナリト)フエオドシイ此洞穴ニ居リ嚴肅ナル行ヲ爲シ恒
 ニ祈禱シテ痛悔ノ涙ヲ流シ神ヲ思念シ且ツ嚴齋スル^ト凡

テ三十年間ナリシカ未タ曾テ餅ヲ食ハズ唯野菜及草根
 木皮或ハ果實ノ食フヘキ者ヲ求メテ食トナシタリ洞穴ニ
 在ル一數年ナラサルニ衆人又集ヒ來リテ其教訓ヲ乞ヒケ
 レハフエオドシイ謝退スル一能ハズ且ツ來ル者日一日ヨリ
 多クノ遂ニ洞穴ニ溢ルニ至リシカハ敬虔ナル隱士等各々
 役ニ就キ一ノ修道院ヲ立テソノ請ヒタリフエオトシイ素
 ヨリ幽靜ナルヲ愛セシモ己レニ隨從スル兄弟ノ爲メニ勤
 メサルヲ得サルニ至リタレハ之ヲ許シ而シ山林ニ隱ルノ
 ミ修士ノ功德ニ非ス喻ヒ多人ニ接スルモ心ヲ靜コメ己レ
 ニ克ツハ亦修士ノ功德ナリト思ヒ萬事皆神意ニ任セシガ久

シカラズシテ大修道院トナリタリ此ノ時耶路撒冷城ノ近傍
 ニ聖薩瓦ノ大修道院アリシカ耶路撒冷城ノ總主教ハ聖フエ
 オドシイヲ擧ケテ大修道院ノ監督ト爲シ聖薩瓦ヲ別居修
 者ノ監督トナセリフエオドシイ又己ノ大修道院内ニ聚居修
 道院ヲ創立セリ創業ノ際數々究乏飢餓ニ迫リタレトフエオ
 ドシイ素ヨリ篤ク神ヲ信シ失望セサル故其望モ亦空シカ
 ラスノ途クルニ至リタリ或ル時復活ノ大祭ニ臨ミシカ其
 前日ニ至リテモ未タ聖体ノ餅タニ有ル一ナゲレハ修士等
 深ク之ヲ愛ヒタリフエオドシイ疑念ナク主神ニ依頼シ謂テ曰
 シ「子等之ヲ愛ル勿レ神若シ之ヲ欲セハ必人ノ携ヒ來ル有

ラント其夜果シテ一ノ敬虔ナル富人聖餅及多クノ必要諸物
 チ携ヒ來リテ修道院ニ奉獻セリ之ヲ始トシテ獻納ヲ爲スモノ
 陸續トシテ四方ヨリ來リケレハ畜必要ノ物品ニ富ムノミ
 ナラス猶餘リアリテ究乏ノ人々ニ濟施スルニ至レリ尋テ
 數棟ノ聖堂ヲ建築シ又病院、貧院、客舍ヲ昔時ハ猶太地方ニ
 旅人ノ客舍ヲ建テ創立シ病人貧人旅人ヲ恤レミ身自ラ旅客
 ヲ慰メ病者ヲ看護シ食ヲ分テ貧者ニ飽カシメシ等實ニ衆
 人ノ保惠者タリ親友タリ又各人ヲ見ル猶ホ至愛ノ兄弟ノ
 如ク其ノ盛徳、人ヲシテ奮起セシメタリ聖ヲエオドシイノ修道
 院ニ希臘アルメニア等ノ諸國ヨリ來ル者アリテ語音互ニ

通セザレハ修士各國語ヲ以テ祈禱ヲ爲スノ聖堂ヲ持テリ
 唯聖體ヲ領スルノ時ハ皆神ノ母馬利亞ノ名ニ依リテ建ル
 所ノ希臘ノ聖堂ニ集マリテ領聖シタリ此ノ時修士ハ統テ
 六百九十三人アリシカ後多クヲエオドシイノ聰明ニシテ善ク
 治ムルト仁恤ナル功德トニ馴染メ各々修道院ノ掌院ト爲
 レリヲエオドシイ能ク謙ニシテ數多ノ兄弟ヲ治ムレヒ心嚴明
 ニシテ犯ス能ハス常ニ聖大和志理乙ヲ尊テ修道ノ總鑒ト
 爲セリ又自ラ愛ヲ尽シ修士等ニ教訓シテ曰ク「兄弟ニ我等
 ハ我等ノ罪惡ノ爲ニ血ヲ流シタル我等ノ主耶穌基督ノ愛
 ニ因テ靈魂ノ事ヲ務メ浮世ノ虛妄ヲ顧ミズ來世ノ榮福ヲ

慮ルヘシ仁善ナル業ヲ明日ニ延ス勿レ怠リテ貴重ノ光陰
 ナ徒費スル勿レ我等善行ナクソハ死後在天ノ慶筵ヨリ捨
 ラソシ恒ニ我等ノ惡行ヲ悲ニ涕淚シ悔改セヨ死後痛ク悔
 ルモ争テカ益アラソヤ今我等ノ爲メニ幸ノ時ナリ救ノ時
 ナリ今世ニ在リテハ悔改シ來世ニ在リテハ報ヲ受ケ今世
 ニ在リテハ勤勞シ來世ニ在リテハ賞ヲ受ケ今世ニ在リテ
 ハ忍耐シ來世ニ在リテハ歡樂セン今日主ハ聖教ニ歸スル
 モノヲ助ケ幸ヲ賜ヒ來日ハ寸惡モ隱ス能ハサル聖父ノ前
 ニ於テ嚴正ナル審判者トナラソ今ハ其恒忍ニ浴スルモ後
 亦其ソ公義ナルヲ知ル我等復活スル時一ハ永キ生命ヲ受

ケテ歡樂シ一ハ永苦ニ号哭セント

此ノ時ニ當リテ希臘帝阿那西乙ハエウテイヒイノ異
 端ヲ信シタリ(大意ニ曰フ耶穌基督兩性ニ非ス一性ニシテ
 神性ノミナリト)此異端ハ四百五十一年合留基頓ニ開キタ
 ル第四公會ニ於テ闢除セララル、モ阿那西乙帝ハ公會
 ニテ定ル所ノ法ヲ破リ且異端ヲ全國ニ布カントセシフェオ
 ドシイカ令望アリテ衆人ニ尊敬セララル、ヲ知リ己ノ信ズ
 ル所ニ傾ケント欲シ數々禮物ヲ備ヘ修道院ニ贈リタリ然
 ルニフェオドシイ堅ク聖教ヲ守リテ之ヲ肯ハズ書ヲ帝ニ上
 リテ曰ク命ヲ奉メ第四公會ニ於テ定メタル真理ニ背離セ

ノヨリハ軍口死ニ就カシト帝其書ヲ見テ暫ク聖教ヲ容遜
 スルヲ止ムモ後ヲ詔テ下シ曰ク「合留基頓ノ公會ヲ認ムル
 一勿レ」ト時ニフエオドシイ身ノ衰老ヲモ顧ミス己ノ修道院
 ナ去リ耶路撒冷ニ至リ聖堂ノ階ニ立テ群衆ニ謂テ曰ク「人
 誰カ第四公會ヲ認メサルモノアラハ我之ヲ教會ヨリ放逐
 セシ」ト衆之ヲ聞キ功德者ニ向テ抗スルモノ一人モアツザ
 リキ後又熱信ナル弟子ヲ從ヒ諸城邑ヲ周遊シ正教ヲ確固
 シ異端ヲ闢除シケレバ帝聞テ大ニ怒リフエオドシイヲ流シ
 去リ後幾何モナクノ帝崩シケレバフエオドシイハ他ノ流者
 ト共ニ歸リテ又己ノ修道院ニ入りタリ

聖フエオドシイ多クノ奇蹟ヲ行ヒ神ノ恩寵ノ力ニ依リテ病
 者ヲ痊シ又能ク人心ヲ洞知セリ將ニ世ヲ逝ラントスル時俄
 ニ鳴鐘ノ兄弟ヲ集メ祈禱シ流涕ノ曰ク「諸父兄弟皆祈禱セ
 ヲ神ノ義怒東ニ臨メリト」此ノ時聖者ノ言ノ如ク安提阿城、
 大地震ノ爲ニ破壊シタリ
 聖フエオドシイ享年百五十ニシ世ヲ逝リタリ時ニ死ノ方サ
 ニ近ツクヲ知リ之ヲ殊愛スル所ノ三人ノ主教ニ報道セリ
 ト云フ
 ○聖致命女達特昂那ノ傳廿四日
 聖達特昂那ハ羅馬人ニシ富貴ナル者ノ女ナリ幼ニシテ父ニ

基督教ヲ學ヒ長ズルニ及ンテ嫁スルヲ願ハズシテ専ラ神ニ
 奉事セシ故ニ女補祭トナレリ最ト親切ニ病者ヲ看護シ固
 圉ニ在ル者ヲ顧恤シ貧者ニ濟施シ恒ニ祈禱ト善行トヲ以
 テ神ニ悅ハレシヲ勤メタリ
 此ノ基督徒ノ情狀ハ誠ニ艱難ノ時ニテアル其ハ異教ノ帝
 王多クソ信者ヲ苦シメテ之ヲ杖撻シ或ハ之ヲ死ニ致セバ
 也二百二十二年羅馬帝エリヲガハル弑セラレシ後、歷山セ
 ウエル位ヲ嗣キシカ年甫メテ十六ナリ基督徒ハ其ノ母馬木
 毎亞カ敬虔ノ基督徒ナルヲ聞キ寬典ノ處置アラシメテ望
 ミテ大ニ悅ヘリ然ルニ其ノ望ミハ嗣帝即位ノ後モ遂ニ空

シカリシ其ハ帝幼ニシテ親カラ政ヲ爲ス能ハザレハ大臣等
 政ヲ攝シ前帝ノ意ヲ續テ基督徒ヲ窘逐シケレハ也遂ニ令
 テ下シテ曰ク帝ニ忠ナル者ハ宜シク諸神ニ獻祭スベシ若
 シ令ニ逆フモノハ帝命ヲ奉セザル國ノ反逆者ト爲メ嚴罰
 ニ處セント遂ニ達特昂那ヲアホルロンノ殿ニ引キ強テ偶
 像ニ跪拜セシメントセシニ處女之ヲ肯ハズ天ヲ仰テ神ニ
 祈リケレハ偶像忽チ地ニ倒レテ破壊シタリ市尹、達特昂那
 テ召シ語ヲ和ラケ諭シテ基督徒ニ背離セシメントセシニ處
 女カ其ノ言ニ從ハサルヲ見、命ヲ或ハ杖撻シ或ハ面ヲ批テ
 或ハ眼ヲ抉キテ大ニ之ヲ苦シメタレハ處女悉ク耐ヘ忍ビ

主神ニ祈リ其眞實ナル教ノ光リテ以テ窘遜者ヲ照サソ
 ナ祈求セシニ主其祈リヲ容ルシ市尹ノ僕命ヲ受ケ處女ヲ
 苦シメシ者處女ヲ憐ミテ市尹ノ前ニ至リ其苦ヲ止ソテ
 請ヒシ時乍々天ヨリ光アリテ僕ヲ照光セハ其靈目俄ニ開
 ケ眞實ノ神ヲ承認シ且ツ處女ヲ堅ムルノ神使ヲ見タリ斯
 ク神ノ榮光ニ照サレタル僕ハ致命女ノ足下ニ伏拜ソ曰ク
 「眞實ノ神ニ奉事スル者ヨ願クハ我等ヲ宥セ」ト市尹ノ僕ハ
 人眞實ノ神ヲ信シ在天ノ神ヲ讚揚シタレハ却テ斬首セラ
 レタリ
 朝ヨリ暮ニ至ル迄處女ヲ苦メ夜ニ至リテ牢獄ニ下セ終

夜異光アリ獄中テ照セリ聖達特昂那一聲高ラカニ神ヲ
 讚揚シケレハ神使之ニ和シ其ノ統乍々痊エタリ市尹此ノ
 奇蹟ヲ見ルモ心猶解ケズ復々處女ヲ苦シメ遂ニ狂獸ニ食
 ハシメシトシ獅子ノ檻内ニ投セシニ獅子處女ニ馴ル猶
 羊ノ如クニシテ害ヲ爲サマリケレハ市尹主カ處女ヲ守護シ
 其心ノ奪フ能ハザルヲ見テ斬首スルヲ命セリ同時ニ其父
 モ死ニ處セラレタリ

○尼色庇ノ主教聖雅各ノ傳二十五日

聖雅各ハアルミヤン王族ヨリ出テ波耳西亞ト羅馬國境ト
 ル米所波大米ノ尼色庇城ニ生レタル人ナリ幼ニシテ良キ教

育ヲ受ケ長スルコ及テ今世ノ富貴ヲ願ハズ嚴肅ナル品行
 テ立テ以テ主ニ奉事セント思ヒ遂ニ世塵ヲ脱シ野ニ逃レ
 夏ハ山林ニ入り冬ハ洞穴ニ棲ミ草根野菜ヲ食ヒ獸皮ヲ衣、
 専ラ勤勞ト祈禱トヲ以テ神ニ奉事スルコ多年ナリキ然ル
 ニ神ハ雅各ヲ選所ヨリ召シテ他ノ功勞ニ就カシメシカバ雅
 各、心ヲ定メ往テ波耳西亞ニ傳道シ神ノ佑ニ因リテ奇蹟ヲ
 行ナヒ多人ヲ眞實ノ教ニ歸セシメタリ
 尼色庇ノ基督徒ハ聖雅各ヲ主教ト爲サントセシニ雅各謙
 讓固辭メ敢テ之ヲ受ケサルモ人望之ニ歸シ遂ニ止テ得ス
 以_テ其ノ職ニ就キタリテ雅各神ノ聖光榮ト人々ノ公益ト爲コ已

ノ勤勞ヲ願ニス力ヲ會事ニ盡シ群衆ヲ教訓シ勉メテ人々
 テ迷誘ニ守リ且ツ數卷ノ書ヲ著シテ眞理ヲ解明シ第一公
 會ニモ與カリテアリイノ異端ヲ闢除シタリ

大帝君士坦丁ノ崩スル後、嗣帝ハ波耳西亞王サホールト不
 和ヲ生シサホールハ國境ナル尼色庇城ヲ圍ミ之ヲ取ラシ
 トスルコ數回ナリシカ雅各、祈禱ト慰言トヲ以テ城守者
 ノ心ヲ堅シ神ノ守護ハ堅ク信ス可ギテ教ヘテ重圍ノ中ニ
 勵マシケレバサホールカ勢威ノ猛烈ナルニ當ル可カラズ
 シテ城ヲ守ルハ猶累卵ノ危キカ如クニ見ヘタルモ雅各ノ
 祈禱ニヨリ火象、火馬有リテ波耳西亞ノ軍ニ乱入シ其圍ヲ

破リケレハ波耳西亞王之ヲ見テ以爲ラク羅馬帝自カラ大
軍ヲ卒ヒテ來リ援フト忽チ圍ヲ解テ逃走セリ雅各三百五十
年ニ世ヲ逝リシガ後尼色庇城遂ニカホールニ攻メ取ラレタリ

○タイフア及ヒ西乃山ニ於テ殺サレタル諸聖師父ノ

記念二十六日

聖ナル隱士カ世塵ヲ脱セシ時、獨、今世ノ安樂ヲ捨テ備
ニ辛苦艱難ヲ嘗メタルノミナラズ更ニ猛勇ナル獅子ノ
咆哮メ食物ヲ索ルカ如ク山埜ニ流浪スル蠻人ノ攻撃ヲ受
ケシガ聖隱士等ハ少モ懼ル、色ナク此ノ蠻人ニ接シタリ
其ハ專ラ主神ニ依頼シ死ヲ懼レザレハ也又神ノ道ヲ布カ

シカ爲メニ屢々人倫ヲ説キ教ヘ蠻人ヲ罪惡ヨリ反シ改
悔ノ道ニ導キ救道ニ就カシメタリ而シテ殊ニ數々攻撃ニ遇
フハ西乃山ノ近傍ナリ此ノ處ハ聖遜者ノ淵藪ナレハ或ハ
廣大ナル修道院ニ住スルアリ或ハ野外ノ屋舎ニ居ルアリ
或ハ山谷ノ洞穴ニ住スルアリ固ヨリ甚タ閑靜ニシテ其渡生
ハ唯祈禱ト聖書ヲ讀ムトニ消光スルノミナレハ人誰モ其
心中ノ慾情ト惡シキ想像トニ戰ヒ勝ツノ徳アルヲ知ル
者ナシ然ルニ時アリテ神ノ奇異ナル恩寵顯ハレテ修士ノ謙
遜ナル渡生ヲ照光セシカバ諸隱士中奇蹟ヲ行フカト人心
ヲ洞知スル恩寵トテ受クル者少ナカラズ然ルニ皆謙遜ヲ

以テ修士ノ美冠トナシ勉メテ己ノ名譽善行功德ヲ他人ニ
 顯ハサバリキ
 第四世代野蠻ノ民ウレムミンナル者西乃ノ近傍ヲ掠奪シ
 波立人テフロワイル人^{ホリッ}基達^{キダ}人ノ家ヲ毀テ其ノ財物ヲ奪取シ
 又獲ル所アラント欲シテ修道院ヲ犯シタリ然ルニ一物
 モ得ル所ナキ故三十八人ノ修士ヲ杖撻シテ死ニ至ラシメケ
 レハ他ノ修道院ノ修士等此事ヲ聞キ殺死ニ遇フ者ノ屍ヲ収メ
 ノトメライファノ野ニ至リジニ又皆悉ク殺サレタリ此時一
 年少ノ修士辛クモ其ノ危難ヲ脱シ歸リテ詳カニ諸隱士ノ
 殺死ニ遇タル狀ヲ語リシニユヘ其事四方ニ達シ近傍ニ住ム

住民等各々兵器ヲ執リテ拒守ノ備ヲ爲シタリ而シテ修道院
 ノ四十三人ノ修士等ハ恒ニ聖堂ニテ祈禱シ專ラ神意ニ任
 シ其靈ノ安全ヲ賜ハントテ祈リタリ或ル夜頓カニ海盜ノ
 船海岸ニ着シケレハ(修道院ハ紅海)民ノ壯者凡ソ二百人俄
 ニ兵器ヲ取り妻子ヲ守リ防戦ノ備ヲ爲シ而シテ修士ハ悉ク
 壁内ノ聖堂ニ集マリタリ蠻民ノ大軍岸ニ上レハ居民出テ
 防戦セシガ大敗シテ斬首セラレルモノ百五十余人ニ及ヒ妻
 子皆擄トナレリ蠻民大ニ怒聲ヲ發シ聖堂ヲ毀ヒ財寶ヲ奪
 シトシ壁ヲ圍ミシカバ修道院ニ在ル者ハ皆死シ且夕ニ待
 ツノ外他ナク或ハ泰然トシテ談笑シ或ハ流涕シ或ハ神ヲ

讚揚シテ兄弟ヲ慰ムルモノ皆異口同音ニ祈リテ曰ク「主憐恤セヨ」ト時ニ掌院、保羅、兄弟中ニ立テ謂テ曰ク「諸兄弟ニ有罪ナル末弟ノ言ヲ聞ケ諸兄弟ノ知ル如ク我等ハ吾カ主耶穌基督ヲ愛シ世塵ヲ脱シ世ノ快樂ヲ捨テ此ノ荒野ニ住ミ勤勞饑渴ノ間ニ其安樂ナル軛ヲ負ヒ永遠ノ安樂ヲ天國ニ受ケント欲スル者ニシテ是ヨリ外、何事ヲモ望ムコトナク常ニ死ニ備ヘシ者ナリ若シ吾等ノ主我等ノ今世ヲ逝リ神ノ聖前ニ至ルコトヲ望ミナハ我等何ソ必スシモ悲シキ懼ル、コトアラソヤ誠ニ欣喜感謝スヘシ何トナレバ何ノ喜カ神ヲ拜シ其ノ光榮ヲ見ルニ勝ル者ナケレハ也諸兄弟ヨ宜シク顧念記憶

スヘシ聖致命者ノ勤勞艱難セシテ吾等已ニ彼等ト俱ニ天國ニ在ラソコト切望シタルニ今己ニ時到レリ何ソ懼レ悲ミテ迷フベクヤ正サニ己ヲ神ニ任シ泰然トシテ死ニ就カン耳」ト「修士等此ノ言ヲ聞キ大ニ勵ミテ曰ク「誠ニ尊師父ノ言ノ如シ願クハ爾ノ言ノ如クナラン」ト且ツ歌フテ曰ク「主ノ我等ニ賜フ所ニ報フルニ何物ヲ以テセンヤ唯救ノ杯ヲ飲ミ主ノ名ヲ謳歌セン」ト次テ掌院手ヲ舉ケ天ヲ仰テ歌フテ曰ク「主耶穌基督、全能者、爾我等ノ歌詠且ツ保助ナリ爾ノ不當ノ僕我等ヲ忘ル、コト勿レ我等ノ荏弱ヲ憐ミテ我等ヲ鞏固セヨ我等ノ生命ヲ以テ義ニ合フ祭リノ如ク受納セヨ

蓋、光榮尊貴、爾ニ歸ス。今及ヒ恒并ニ世々ニ「衆兄弟和シテ曰ク「阿民」ト倏チ慰ムル聲アリ至聖所ヨリ出テシ者ノ如シ曰ク「勤勞煩苦スル者ヨ我ニ來レ我ハ汝等ノ安息ナリ」ト衆欣喜ニ堪ヘズ地ニ伏シ感謝セリ此ノ時蠻民壁ニ攀チ登リ乃チ揮テ聖堂ニ乱入シ戸傍ニ立タル百歳ノ老翁耶利米ヲ捕ヘ之ニ謂テ曰ク「汝我ニ汝等ノ首領タル者ヲ告ケヨ」ト耶利米、泰然トシテ答テ曰ク「我カ基督ノ敵ヨ我ヲ恐喝セント欲スルカ我レ汝等ニ我等ノ首領タル者ヲ告ケズ」ト蠻民聞テ大ニ怒リ之ヲ射殺シケレバ百歳ナル老翁ハ衆ニ先チテ永遠ノ生命ニ赴キタリ

此ノ時掌院保羅自ラ揚聲シ己ヲ顯シケレハ蠻民之ニ謂テ曰ク「爾ノ金財貨物ヲ藏ムル所ハ何處ナルヤ明ニ我等ニ告ケヨ」ト保羅常ノ如キ卑遜ナル聲ニテ答テ曰ク「爾等ノ見ル如ク我カ着ル所ノ弊衣ノ外一物タモアル」ト蠻民或ハ乱射シ或ハ石撃シ遂ニ劍ヲ揮テ其ノ首ヲ斬リケレハ仁慈ナル師父保羅ハ老翁那利米ノ戸傍ニ斃レタリ蠻民堂ノ左右ニ斬リ廻レハ或ハ一刀ノ下ニ死シ或ハ大疵ヲ受ケテ斃レ鮮血淋漓、堂中川ヲ爲シタリ此時、一年少ナル修士神ノ仁慈ニヨリ聖堂中ニ集メ置キタル櫻欄ノ枝葉ニ隠レテ生命ヲ全フスルヲ得テ一瘡ヲモ受クルヲナシ其慘怛ナル殺